

# 小島本伝遺跡Ⅲ

— D地点の調査 —



本庄市埋蔵文化財調査報告書  
第70集

小島本伝遺跡Ⅲ

— D地点の調査 —

二〇二二

本庄市教育委員会

2022

本庄市教育委員会  
株式会社 テックサス

お じま ほん でん い せき  
小島本伝遺跡Ⅲ  
— D地点の調査 —

2022

本庄市教育委員会  
株式会社 テックサス



# 序

埼玉県の北西部に位置する本庄市は、県指定史跡「鷲山古墳」や「雉岡城跡」をはじめ、数多くの遺跡と歴史的建造物に恵まれた地域です。

本書に報告する小島本伝遺跡は、古墳時代の中頃から終わり頃を主体とする集落遺跡で、これまでにA地点からD地点までの発掘調査が実施されてきました。また、本遺跡の南西には、4世紀から7世紀にいたるまでの約300年間継続的に造営された旭・小島古墳群があり、これまでの発掘調査で多種多様な埴輪が検出されています。

さて、本書所収の小島本伝遺跡D地点では、古墳時代中頃を中心とする竪穴住居跡等が検出されており、これらの遺構覆土中からは、同時代の土師器片や、隣接する古墳群に伴うと考えられる埴輪片等が多数検出されています。

本書は開発工事に先立って実施した発掘調査の成果をまとめたものであり、本庄市の歴史を考えるうえで重要な資料の一つでもあります。今後は、本書が学術的な研究の発展に寄与するとともに、地域の歴史や遺跡を理解する一助として、多くの皆様にひろく活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、ご協力いただきました株式会社ワイケーツー、株式会社テックサスをはじめ、様々なご協力やご教示を賜りました関係諸機関並びに関係者の皆様に対しまして、心からお礼を申し上げます。

令和4年6月

本庄市教育委員会  
教育長 下野戸 陽子



## 例言

1. 本書は、埼玉県本庄市小島字泉坂 886 - 3、889 - 1 の一部、901 - 5 の一部に所在する小島本伝遺跡 D 地点 (No. 53 - 008) の発掘調査報告書である。
2. 小島本伝遺跡に関する発掘調査報告書は、これまでに『離濠Ⅱ・笠ヶ谷戸・小島本伝』、『小島本伝遺跡Ⅱ - C 地点一、旭・小島古墳群 - 林 6・7 号墳 D 地点一』の 2 冊が刊行されている。本書は小島本伝遺跡の 3 冊目の報告書となることから『小島本伝遺跡Ⅲ - D 地点の調査一』とした。また小島本伝遺跡は調査地点ごとに呼称が定められており、本書所収となる地点は小島本伝遺跡 D 地点と呼称する。
3. 発掘調査の目的・調査期間・調査機関・調査担当・現地調査は以下の通りである。

調査目的	株式会社テックサスの第 2 倉庫建設工事に伴う、事前の記録保存
調査機関	本庄市教育委員会
調査期間	令和 4 年 1 月 12 日～2 月 24 日
調査担当	大熊季広、的野善行、福岡佑斗
現地調査	渡邊大士 (株式会社歴史の杜)
4. 発掘調査及び整理・報告書刊行に要した経費は、株式会社テックサスが負担した。
5. 整理調査及び報告書作成・刊行は、本庄市教育委員会の指導の下、株式会社歴史の杜が行なった。
6. 本書の執筆は、第 I 章を本庄市教育委員会文化財保護課、第Ⅱ～Ⅳ章を渡邊が行なった。
7. 本書に関する出土品、図面、デジタルデータ等の資料は、本庄市教育委員会が保管する。
8. 本報告の発掘調査、整理調査、報告書編集・刊行に関する本庄市役所の組織は以下の通りである。

小島本伝遺跡D地点発掘調査組織（令和3年度）

主体者	本庄市教育委員会	教 育 長	勝山 勉
	事務局	事 務 局 長	高橋 利征
	文化財保護課	課 長	佐々木 智恵
		課 長 補 佐	細野 房保
		課 長 補 佐	山田 修
		埋 蔵 文 化 財 係 長	大熊 季広
		主 査	的野 善行
		専 門 員	徳山 寿樹
		主 事	福岡 佑斗
		主 事	水野 真那
		主 事 補	松浦 誠
		会計年度任用職員	中嶋 淳子、矢内 勲、新井 嘉人、栗原 正実 落合 智恵美、倉林 美紀、黒澤 恵、渋谷 裕子 星野 八重子
		調 査 支 援 員	渡邊 大士（株式会社歴史の杜）

小島本伝遺跡D地点発掘調査組織（令和4年度）

主体者	本庄市教育委員会	教 育 長	下野戸 陽子
	事務局	事 務 局 長	高橋 利征
	文化財保護課	課 長	折茂 勝彦
		課 長 補 佐	細野 房保
		課 長 補 佐	山田 修
		埋 蔵 文 化 財 係 長	的野 善行
		主 任	鈴木 まゆみ
		専 門 員	徳山 寿樹
		主 事	福岡 佑斗
		主 事	水野 真那
		会計年度任用職員	中嶋 淳子、矢内 勲、新井 嘉人、栗原 正実 落合 智恵美、倉林 美紀、黒澤 恵、渋谷 裕子 星野 八重子
		調 査 支 援 員	渡邊 大士（株式会社歴史の杜）

9. 発掘調査および本書の作成にあたって、以下、諸調査機関の方々よりご助力・ご協力を賜った。記して感謝いたします（敬称省略）。

池田 匡彦、出浦 崇、井上 裕一、太田 博之、金子 彰男、北山 直人、木村 取、  
永井 智教、中沢 良一、林 道義、松本 完、丸山 修、横澤 真一、  
児玉郡美里町教育委員会、児玉郡神川町教育委員会、児玉郡上里町教育委員会、  
埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、早稲田大学考古資料館

## 凡例

1. 本書所収の全測図・各遺構平面図のX・Y座標は世界測地系第IX系に基づく。単位はmである。全測図・各遺構平面図における方位針は座標北を表す。
2. 本報告書の本文・図中における各種遺構・遺物の略号は、下記の通りである。  
SI = 竪穴住居跡、SK = 土坑、P = ピット・柱穴
3. 遺構実測図は、全測図を1/250、住居跡カマド・炉、貯蔵穴の平面図・断面図を1/30、その他の遺構平面図・断面図を1/60で掲載した。
4. 遺構の規模は、上端での計測値を原則としている。
5. 遺構図中のスクリーントーンは以下の通りである。  
////// 地山の関東ローム層    ■■■■ 焼土
6. 遺物実測図に使用したトーンは以下の通りである。  
■■■■■■ スス・コゲ
7. 本文中や土層説明中におけるAs-Aは、浅間山系噴出物のAテフラ（1783年爆裂）を表す。
8. 遺物観察表における、各項目の内容は以下の通りである。  
A - 法量（単位はcm）、B - 成形、C - 整形・調整、D - 胎土・材質、E - 色調、F - 残存度、  
G - 備考、H - 出土地点（現場取り上げ番号等）
9. 遺物の実測図及び写真の縮尺は、土器完形・復元個体・埴輪を1/4で掲載した。
10. 本報告書で使用した地図は下記の通りである。  
第1図：本庄市都市計画図 1/2,500（平成25年度）  
第2図：堀口万吉「II 埼玉県の地形と地質」『新編埼玉県史自然編』1986  
第3図：国土地理院発行 1/25,000「伊勢崎」（平成15年度）「本庄」（平成10年度）
11. 発掘調査報告書等の引用文献は、文中では明示せず、第IV章末でシリーズごとにまとめて掲載した。



# 目次

序  
例言  
凡例

第Ⅰ章	発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章	遺跡の地理的・歴史的環境	2
第1節	地理的環境	2
第2節	歴史的環境	3
第Ⅲ章	確認された遺構と遺物	5
第1節	遺跡の概要	5
第2節	基本層序	5
第3節	検出された遺構と遺物	5
第Ⅳ章	まとめ	36
参考文献		37
写真図版		
報告書抄録		

## 〈挿図目次〉

第1図	小島本伝遺跡A～C地点の範囲と調査地点	第15図	第20号住居跡カマド、カマド掘り方平面・断面図
第2図	埼玉県の地形図	第16図	第20号住居跡出土遺物図
第3図	小島本伝遺跡D地点の位置と周辺遺跡	第17図	第21号住居跡平面図
第4図	基本層序概略図	第18図	第22号住居跡平面・断面図①
第5図	小島本伝遺跡D地点調査区全測図	第19図	第22号住居跡平面・断面図②
第6図	第18号住居跡平面・断面図①	第20図	第22号住居跡掘り方平面図
第7図	第18号住居跡平面・断面図②	第21図	第22号住居跡出土遺物図
第8図	第18号住居跡カマド平面・断面図	第22図	第23号住居跡平面・断面図①
第9図	第18号住居跡出土遺物図	第23図	第23号住居跡平面・断面図②
第10図	第19号住居跡平面・断面図①	第24図	第23号住居跡掘り方平面図
第11図	第19号住居跡平面・断面図②	第25図	第23号住居跡カマド、カマド掘り方平面・断面図
第12図	第19号住居跡掘り方平面図	第26図	第23号住居跡出土遺物図①
第13図	第19号住居跡出土遺物図	第27図	第23号住居跡出土遺物図②
第14図	第20号住居跡平面・断面図		

第28図	第24号住居跡平面・断面図
第29図	第24号住居跡カマド平面・断面図
第30図	第24号住居跡出土遺物図
第31図	第25号住居跡平面・断面図①
第32図	第25号住居跡平面・断面図②
第33図	第25号住居跡出土遺物図
第34図	第122号土坑～第127号土坑 平面・断面図

第35図	第124号土坑出土遺物図①
第36図	第124号土坑出土遺物図②
第37図	遺構外出土遺物図
第38図	第23号住居跡出土馬形埴輪①
第39図	第23号住居跡出土馬形埴輪②
第40図	第23号住居跡出土馬形埴輪③
第41図	第124号土坑出土家形埴輪①
第42図	第124号土坑出土家形埴輪②

#### 〈表目次〉

第1表	第18号住居跡	ビット計測表	第15表	第124号土坑	出土遺物観察表
第2表	第18号住居跡	出土遺物観察表	第16表	遺構外	出土遺物観察表
第3表	第19号住居跡	ビット計測表	第17表	第23号住居跡	出土馬形埴輪 遺物観察表
第4表	第19号住居跡	出土遺物観察表	第18表	第124号土坑	出土家形埴輪 遺物観察表
第5表	第20号住居跡	ビット計測表	第19表	第23号住居跡	出土遺物観察表 (写真掲載のみ)①
第6表	第20号住居跡	出土遺物観察表	第20表	第23号住居跡	出土遺物観察表 (写真掲載のみ)②
第7表	第22号住居跡	ビット計測表	第21表	第23号住居跡	出土遺物観察表 (写真掲載のみ)③
第8表	第22号住居跡	出土遺物観察表	第22表	第124号土坑	出土遺物観察表 (写真掲載のみ)
第9表	第23号住居跡	ビット計測表			
第10表	第23号住居跡	出土遺物観察表			
第11表	第24号住居跡	ビット計測表			
第12表	第24号住居跡	出土遺物観察表			
第13表	第25号住居跡	ビット計測表			
第14表	第25号住居跡	出土遺物観察表			

#### 〈写真図版目次〉

写真図版 1	: 調査区遠景・全景
写真図版 2	: 第18号住居跡～第21号住居跡
写真図版 3	: 第22号住居跡～第25号住居跡遺物出土状況
写真図版 4	: 第122号土坑～第127号土坑、作業風景
写真図版 5	: 第18号住居跡～第19号住居跡出土遺物 1
写真図版 6	: 第19号住居跡出土遺物 2～第23号住居跡出土遺物 1
写真図版 7	: 第23号住居跡出土遺物 2
写真図版 8	: 第24号住居跡出土遺物～遺構外出土遺物
写真図版 9	: 第23号住居跡出土遺物 3～第124号土坑出土遺物 2
写真図版 10	: 第124号土坑出土遺物 3～第23号住居跡出土遺物 4
写真図版 11	: 第23号住居跡出土遺物 5
写真図版 12	: 第23号住居跡出土遺物 6～第124号土坑出土遺物 4



## 第1章 発掘調査に至る経緯

令和3年5月18日(火)、本市小島字泉坂886-3、889-1の一部、905-5の一部において、工場の新設を計画している株式会社ワイケーツーより、同開発予定地に関する『埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて(照会)』の照会文書が、本市教育委員会に提出された。

これを受けて、市教育委員会は、埼玉県教育委員会発行の『埼玉県遺跡地図(令和2年度版)』をもとに、同地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しているか照会を行なったところ、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である小島本伝遺跡(埼玉県遺跡番号№53-008)の包蔵地内に所在していることが判明した。

そのため、市教育委員会では、当該事業計画地について遺跡保存のための基礎資料を得るために試掘調査を行なうこととし、令和3年6月30日(水)から7月8日(木)及び7月21日(水)にかけて現地調査を実施した。

試掘調査の結果、事業予定地に保存対象となる埋蔵文化財として、古墳時代の竪穴住居跡と土坑、多数の土師器片が検出された。

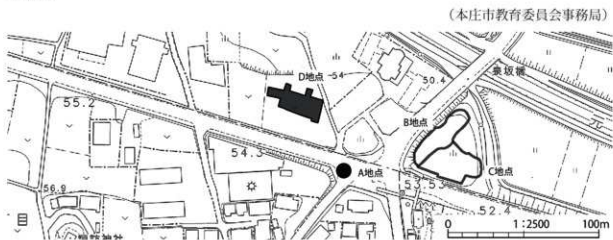
この試掘調査の結果に基づいて、事業主と開発予定地に所在する埋蔵文化財の保存について協議を実施したが、計画変更等は困難であるため、事業予定地内において、工事により保存されない範囲を発掘調査し、記録保存の措置をとることとなった。また、発掘調査を実施するに当たり、事業主より、本発掘調査にかかる発注者が株式会社テックスとなるという連絡があった。

かくして、令和3年10月5日(火)に発注者の株式会社テックスと本市の間で遺跡発掘調査委託契約を締結し、現地における発掘調査を実施する運びとなった。

発掘調査に関わる通知は、株式会社ワイケーツーより文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和3年5月18日付)が、本市教育委員会より文化財保護法第99条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」(令和4年1月6日付本教文発388号)が、それぞれ埼玉県教育委員会に提出されている。

また、埼玉県教育委員会から、開発工事着工前に発掘調査を実施する旨の指示が記された「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)」(令和3年8月18日付教文資第4-1066号)が事業主に通知されている。

なお、現地における発掘調査は令和4年1月12日(水)から同年2月24日(木)の日程で行なわれた。



第1図 小島本伝遺跡A～C地点の範囲と調査地点

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

## 第1節 地理的環境

埼玉県の北西部に位置する本庄市域の地形は烏川・利根川右岸に広がる低地、南方に山地、市街地が展開する台地、丘陵に分かれている。

低地は利根川の右岸に展開する烏川・利根川の氾濫による自然堤防が発達し、台地との高低差は大きくはない。市の北部に位置し、妻沼低地の一部で本庄低地と呼ばれることもある。昭和50年代のほ場整備以前は烏川・利根川の流路跡が明瞭であり、本庄台地の台地崖線際を流れる元小山川筋の流路跡が現在でも確認出来る。かつては水田地帯であったが、昭和33年の国道17号の開通と昭和50年のほ場整備を経て市街地化が進んでいる。

山地は、市域の南部に広がる。秩父山地の一部で陣見山、不動山を主体とし、谷が広く標高600m以下の起伏が小さい地形となる。山地は上武山地北東部の中央にあたり、西で多野郡神流町、南で秩父郡皆野町、南東で秩父郡長瀬町、北東で児玉郡美里町に接する。山中地溝帯以北と荒川流域以西は上武山地と呼称され、市の南東から北西へと展開している。

台地は北武蔵台地の一部で、神流川の扇状地である。小山川（旧身馴川）支流の志戸川以西は本庄台地と呼称される。市域は本庄台地の中央にあたり、台地西部は児玉郡上里町・児玉郡神川町、東部は深谷市（旧岡部町）・児玉郡美里町に広がる。市域の台地東部から南部の大半は小山川とその支流の女堀川の氾濫原で、小山川と女堀川の流路跡が認められ、自然堤防が発達している。台地東部の中央に、児玉丘陵の残丘が二箇所あり、北側は浅見山丘陵、南側は生野山丘陵と呼称される。小山川と女堀川の氾濫原では、流路跡が水田地帯、自然堤防上が住宅街であったが、2004年の上越新幹線本庄早稲田駅開業以降、駅周辺では市街地化が急速に進んでいる。



第2図 埼玉県の地形図

市の南では台地と山地の境界に丘陵地帯が広がる。小山川以西は兎玉丘陵、以東は松久丘陵と呼称され、台地側に突出しており、現在はゴルフ場として開発されている。

本庄台地の末端部は国道17号の北で、東に流れる旧利根川に浸食され、比高差6m～10mの段丘がみられる。小島本伝遺跡はこの断崖線から約100m南に位置し、標高は55mを測る。

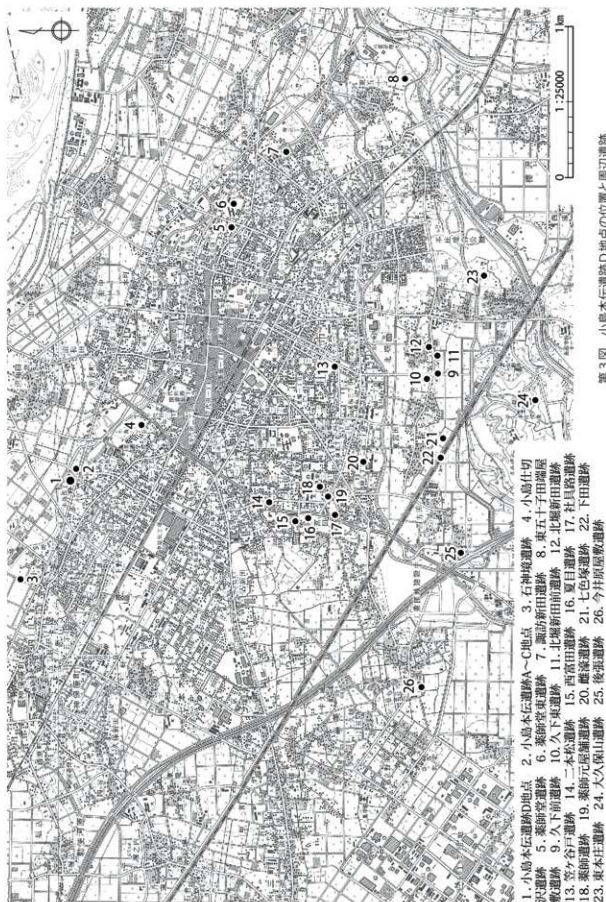
## 第2節 歴史的環境

本節では小島本伝遺跡を含めた古墳時代の集落遺跡の歴史的環境について触れていく。

古墳時代前期では、集落の立地は弥生後期に丘陵部から台地に移動し、台地での開発が進行する。集落遺跡では本遺跡(1・2)、久下前遺跡(9)、久下東遺跡(10)、北堀新田前遺跡(11)、社具路遺跡(17)、七色塚遺跡(21)、下田遺跡(22)、後張遺跡(25)が挙げられる。このうち後張遺跡は竪穴住居跡が35軒検出され、古墳時代前期から中期にかけての中核的な集落として位置づけられている。久下前遺跡、久下東遺跡、北堀新田前遺跡は道路によって分断されているが、一連の遺跡であり、古墳時代前期～奈良・平安時代までの竪穴住居跡が3遺跡合わせて200軒以上検出された大規模な集落である。その他の遺跡は一時的な断絶はあるが、後期まで集落が続き、七色塚遺跡や社具路遺跡は奈良・平安時代まで集落が継続している。

古墳時代中期の集落遺跡は、前期から住居数が増加し、河川沿岸など広域に分布している。集落遺跡としては薬師堂遺跡(5)、薬師堂東遺跡(6)、諏訪新田遺跡(7)、北堀新田遺跡(12)、笠ヶ谷戸遺跡(13)、二本松遺跡(14)、西富田遺跡(15)、夏目遺跡(16)、離濠遺跡(20)、東本庄遺跡(23)、今井原屋敷遺跡(26)などがみられる。薬師堂東遺跡は古墳時代中期～奈良・平安時代の竪穴住居跡が350軒以上確認された遺跡であり、ガラス小玉の鋳型が多量に出土している。出土した鋳型は破片を含めると188点になり、一遺跡での出土点数としてはこれまで最多であった舟橋遺跡(大阪府柏原市)の23点を超える最多の出土点数である。北堀新田遺跡は久下前遺跡、久下東遺跡、北堀新田前遺跡と同一の集落遺跡であるが、主に中期～奈良・平安時代の竪穴住居跡が確認され、前期の遺構はみられない。夏目遺跡では鍛冶関連遺物に加え畿内系土器など外來の土器が出土し、西日本との交流があったと考えられている。離濠遺跡ではカマドに近い用途で使用された炉跡がみられ、二本松遺跡では簡易的なカマドが使われている。多くは古墳時代後期以降も集落遺跡が継続しているが、二本松遺跡や笠ヶ谷戸遺跡は中期のみ存在した遺跡である。

古墳時代後期から運営される集落としては石神境遺跡(3)、小島仕切沢遺跡(4)、東五十子田端屋敷遺跡(8)、薬師遺跡(18)、薬師元屋敷遺跡(19)、大久保山遺跡(24)が挙げられる。石神境遺跡は古墳時代後期～奈良・平安時代の竪穴住居跡が23軒検出された集落遺跡で、本遺跡と同様に古墳時代から台地の末端部に展開する遺跡である。小島仕切沢遺跡は後期の竪穴住居跡が確認されているが、主体をなすのは奈良・平安時代の竪穴住居跡である。その他の遺跡も集落は奈良・平安時代まで継続している。



## 第III章 確認された遺構と遺物

### 第1節 遺跡の概要

小島本伝遺跡は本庄市小島宇泉坂に所在し、本庄台地の北端の段丘崖上に位置する。本遺跡は過去に3次に渡って発掘調査が行なわれている。

第1次調査（A地点）は、昭和32年に国道17号建設に伴う発掘調査が行なわれ、古墳時代の竪穴住居跡が2軒検出されている。

第2次調査（B地点）は平成4年に市道拡張工事に先立ち発掘調査が実施された。B地点では竪穴住居跡が5軒、土坑9基、溝5条、性格不明遺構1基が検出されている。竪穴住居跡は古墳時代後期が主体となる。土坑からは15世紀のかわらけが出土しており、中世の墓坑と推定されている。

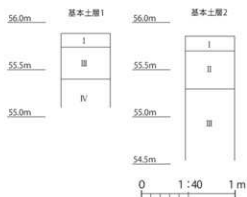
第3次調査（C地点）は個人住宅建設に伴う事前の記録保存を目的として実施された。C地点では竪穴住居跡が10軒、土坑が112基検出されている。竪穴住居跡の時期は古墳時代中期が2軒、古墳時代後期が6軒、時期不明が2軒となる。112基ある土坑の大半は長方形を呈する遺構で、60号土坑からは志野焼の丸皿、85号土坑からはかわらけが出土している。いずれも古墳時代中期～後期が主体となる集落遺跡である。

本調査では竪穴住居跡8軒、土坑6基、ピット3基が確認された。竪穴住居跡は東側で3軒、中央部で2軒、谷状に落ち込む西側で3軒分布している。土坑は主に東側で検出され、西側では確認されていない。ピットは西側の一部で確認されたが、いずれも単独のピットであり、掘立柱建物とはならない。

なお、本報告書で使用する遺構番号はC地点からの通し番号となっている（ピットを除く）。

### 第2節 基本層序

基本土層は調査区北壁で確認した。I層は、As-Aを含む灰黄褐色土が堆積する耕作土層である。II層はローム粒、炭化物を含む黒褐色粘土層で、調査区西側に堆積する。III層は上面が遺構確認面で、にぶい白色軽石を含む褐色ローム層である。IV層は砂礫を多量に含む暗褐色土である。



第4図 基本層序概略図

### 第3節 検出された遺構と遺物

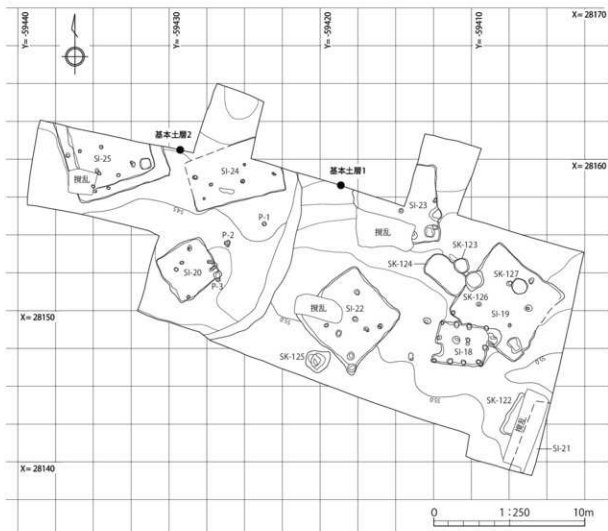
#### 1. 竪穴住居跡

##### 第18号住居跡（第6～9図、第1・2表、写真図版2・5）

調査区東側に位置する。第19号住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。規模は東西方向421cm、南北方向293cm、確認面からの深さは35cmである。平面形は隅丸長方形を呈し、西壁に2か所の張り出し部を持つ。主軸方位は $N-81^{\circ}-W$ である。断面形は、壁がほぼ垂直に立ち上がり、北側の床面がやや低い。床面は直床で、中央部に硬化面が確認された。覆土は主にローム粒、ロームブロック・炭化物を含む黒褐色土が堆積し、南側では上層にローム粒を含むにぶい黄褐色土が堆積する。

カマドは住居内の東壁の北端に位置する。全長101cm、幅110cmである。明確な燃焼部はみられず、煙道の一部に被熱痕が確認された。ピットは住居内で12基（P1～P8、P11～P14）、住居外で2基（P9、P10）検出された。住居内で確認された12基のピットは東西に長い梁間2間×桁行3





第5図 小島本伝遺跡D地点調査区全測図

間の総柱建物を構成している。住居内の柱間隔は梁間で1.0～1.5 m、桁行で0.7～1.5 mである。住居外のP9とP10は、住居内のピットのうち南西側のP6の西側の延長上にP9、北西側のP8の西側の延長上にP10が位置する。梁間方向のP9とP10の柱間隔は2.75 m、桁行方向のP6とP9の柱間隔は1.5 m、P8とP10の柱間隔は1.0 mである。

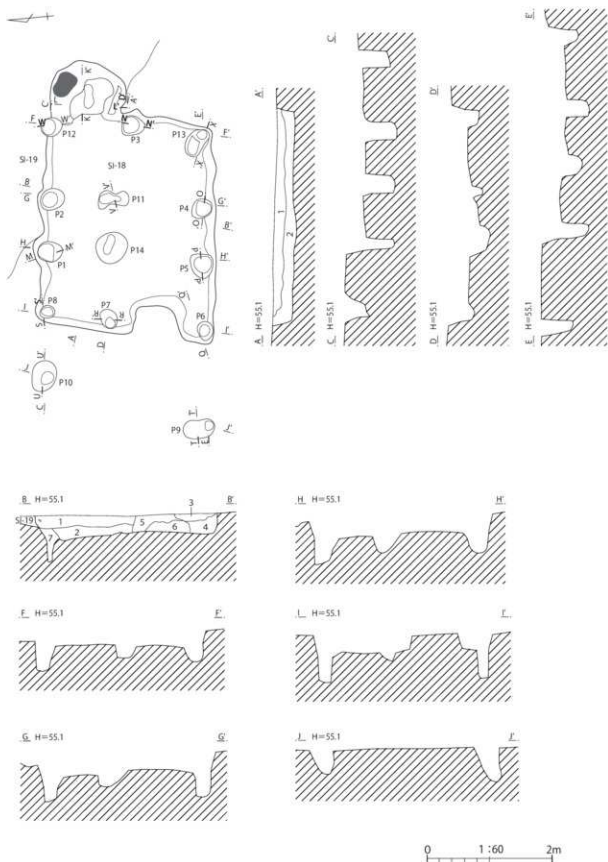
遺物は少なく、カマドから土師器の高坏、甌、土製模造品が出土している。時期は辻堂編年（恋河内 1996）のIV期（5世紀中葉）と考えられる。

第1表 第18号住居跡 ピット計測表

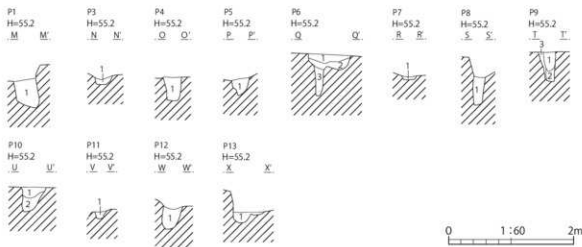
	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
平面形	楕円形	円形	円形	円形	円形	楕円形	楕円形
長軸 (cm)	40	33	36	31	38	27	32
短軸 (cm)	33	33	31	31	35	21	26
深さ (cm)	49	50	18	36	33	42	9

	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14
平面形	円形	楕円形	楕円形	不整形	円形	楕円形	楕円形
長軸 (cm)	23	50	49	47	34	47	52
短軸 (cm)	21	29	38	34	30	28	49
深さ (cm)	45	50	38	11	48	22	30



第6図 第18号住居跡平面・断面図①



**第18号住居跡土層説明**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)含む、ロームブロック(2.0～5.0cm)、炭化物(0.1～0.5cm)少量。  
 第2層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)、ロームブロック(1.0～3.0cm)、炭化物(0.1～0.3cm)少量。  
 第3層 ぶい黄褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)含む。  
 第4層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)、礫(0.5～3.0cm)含む、炭化物(0.1～0.5cm)少量。  
 第5層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)、炭化物(0.1～0.3cm)少量。  
 第6層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)、炭化物(0.1～0.3cm)少量。  
 第7層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)少量、軽石粒(0.1～0.3cm)微量、P2覆土。

**第18号住居跡ピット土層説明 P1**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)少量、軽石粒(0.1～0.3cm)微量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P3**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)、ロームブロック(1.0～3.0cm)、礫(3.0～5.0cm)少量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P4**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)、炭化物(0.1～0.3cm)少量、礫(0.5～5.0cm)含む。

**第18号住居跡ピット土層説明 P5**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)、礫(0.5～2.0cm)少量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P6**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)少量、焼土粒(0.1～0.3cm)微量、砂粒(0.1～0.3cm)含む。  
 第2層 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)含む、ロームブロック(1.0～3.0cm)少量。  
 第3層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)少量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P7**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)少量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P8**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)、礫(0.5～2.0cm)少量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P9**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)少量、ロームブロック(5.0cm大)含む。  
 第2層 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)少量。  
 第3層 ぶい黄褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)少量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P10**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.3cm)少量。  
 第2層 灰褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)少量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P11**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)少量。

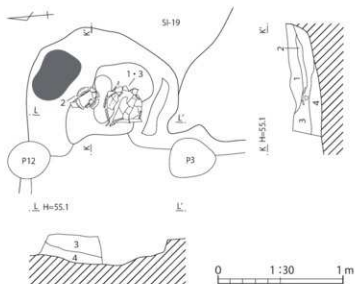
**第18号住居跡ピット土層説明 P12**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)、ロームブロック(1.0～3.0cm)少量。

**第18号住居跡ピット土層説明 P13**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1～0.5cm)含む。

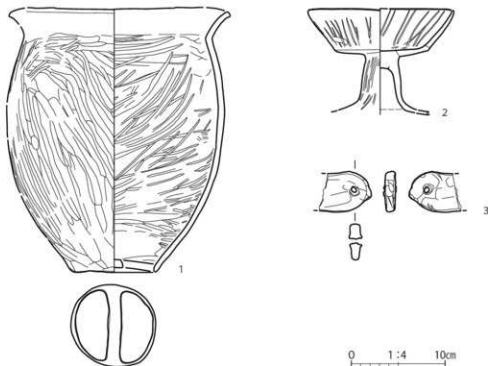
第7図 第18号住居跡平面・断面図②



第8図 第18号住居跡カマド平面・断面図

## 第18号住居跡カマド土層説明

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.5cm)、粘土粒(0.1~0.5cm)少量。  
 第2層 赤褐色土 しまりやや弱い、粘性強い、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量、粘土粒(0.1~1.0cm)含む。  
 第3層 灰黄色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、粘土粒(0.3~1.0cm)含む。  
 第4層 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性強い、ローム粒(0.1~0.5cm)、粘土粒(0.1~0.5cm)少量。



第9図 第18号住居跡出土遺物図

第2表 第18号住居跡 出土遺物観察表

1	土師器 甕	A. 口径23.4。底径8.7。器高28.0。B. 粘土粗積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。D. 白色粒、黒色粒、石英。E. 内外面一橙色。F. 口縁部~胴部1/3欠損。H. カマドNo 1。
2	土師器 高杯	A. 口径15.3。残存高11.2。B. 粘土粗積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラミガキ。内面、口縁部~体部ヨコナデ後ヘラミガキ。D. 白色粒、黒色粒、雲母。E. 内外面一橙色。F. 裾部欠損。H. カマドNo 2。
3	土製模造品 馬形か	A. 残存幅5.1。残存高4.3。厚さ1.3。B. 手握ね。C. 表裏面、ナデ。尾部穿孔。D. 白色粒。E. 内外面一橙色。F. 頭部~胴部欠損。H. カマドNo 1。

第19号住居跡（第10～13図、第3・4表、写真図版2・5・6）

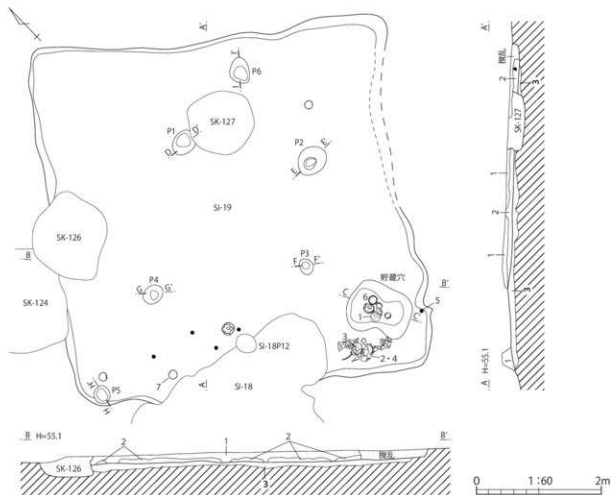
調査区東側に位置する。第18号住居跡、第124・126・127号土坑と重複し、本遺構の方が古い。西側を第124・126号土坑、北側を第127号土坑、南側を第18号住居跡によって削平されている。規模は北西から南東方向で582cm、北東から南西方向で571cm、確認面からの深さは17cmである。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-50°-Wである。断面形は、ほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。床面は貼床で、中央部に硬化面が確認された。覆土の上層はローム粒を含む黒褐色土、下層はローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土が堆積する。

南東隅の床面で貯蔵穴が検出された。平面形は楕円形で、長軸102cm、短軸83cm、床面からの深さは33cmである。黒褐色土が主体で上層には焼土、下層には礫が混じる。ピットは6基検出された。カマドや炉は検出されなかった。

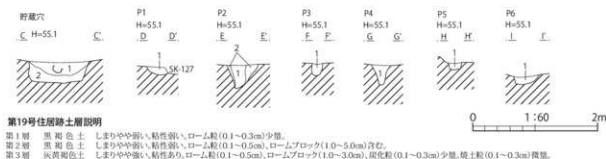
遺物は貯蔵穴内や貯蔵穴周辺の南側で多く出土し、土師器の椀、鉢、高坏、埴、甕がみられる。時期は辻堂編年のIV期（5世紀中葉）と考えられる。

第3表 第19号住居跡 ピット計測表

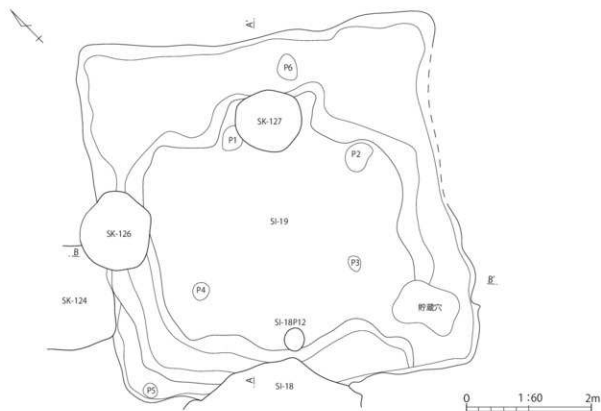
	P1	P2	P3	P4	P5	P6
平面形	凹形	楕円形	楕円形	楕円形	凹形	楕円形
長軸 (cm)	(36)	51	26	23	28	40
短軸 (cm)	32	41	21	18	25	30
深さ (cm)	12	37	18	30	10	11

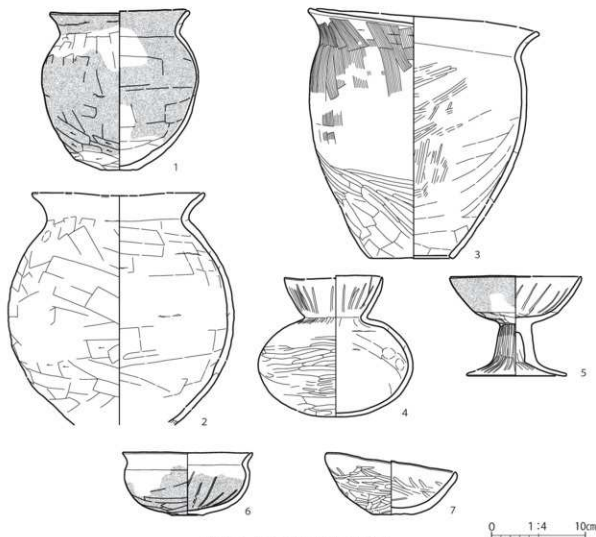


第10図 第19号住居跡平面・断面図①



第11図 第19号住居跡平面・断面図②





第13図 第19号住居跡出土遺物図

第4表 第19号住居跡 出土遺物観察表

1	土師器 甕	A. 口径14.5. 底径3.9. 器高16.8. B. 粘土粗積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヘラケズリ. 内面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヘラナデ. D. 白色粒、石英、角閃石. E. 内外面—にふい褐色. F. 口縁部一部欠損. G. 外面口縁部—胴部スス. 内面口縁部—胴部コゲ付着. H. 貯蔵穴№5.
2	土師器 甕	A. 口径18.1. 残存高24.5. B. 粘土粗積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 指頭圧痕. 胴部ヘラケズリ. 内面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヘラナデ. D. 白色粒、石英、雲母. E. 内外面—にふい褐色. F. 口縁部—胴部一部欠損. 底部欠損. H. №2.
3	土師器 甕	A. 口径23.9. 底径8.9. 器高26.4. B. 粘土粗積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 指頭圧痕. 胴部ヘラケズリ. 内面、ナデ後ヘラナデ、ヘラミガキ. D. 白色粒、黒色粒、雲母. E. 内外面—にふい褐色. F. 口縁部—胴部3/4. H. №1.
4	土師器 甕	A. 口径10.3. 器高15.0. B. 粘土粗積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ. 胴部ヘラミガキ. 胴部下半—底部ヘラケズリ. 内面、口縁部ナデ後ヘラミガキ. 胴部ヘラナデ. 指頭圧痕. D. 白色粒、黒色粒、雲母. E. 内面—にふい褐色. 外面—褐色. F. 胴部下半1/4欠損. H. 貯蔵穴№2. 覆土.
5	土師器 高杯	A. 口径13.8. 底径10.6. 器高10.6. B. 粘土粗積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部下半ヘラケズリ. 脚部ヘラミガキ. 内面、口縁部—体部ヨコナデ後ヘラミガキ. D. 白色粒、石英. E. 内面—褐色. 外面—にふい褐色. F. 口縁部一部欠損. G. 外面口縁部—脚部スス付着. H. №4.
6	土師器 椀	A. 口径13.7. 底径3.4. 器高6.7. B. 粘土粗積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ヘラケズリ. 内面、ナデ後ヘラミガキ. D. 白色粒、角閃石、礫. E. 内外面—褐色. F. ほぼ完形. G. 内外面体部スス付着. H. 貯蔵穴№1.
7	土師器 鉢	A. 口径13.7. 底径4.3. 器高6.5. B. 粘土粗積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ヘラケズリ後ヘラミガキ. 内面、ナデ後ヘラミガキ. D. 白色粒、角閃石、礫. E. 内外面—褐色. F. ほぼ完形. H. №8.

## 第20号住居跡(第14～16図、第5・6表、写真図版2・6)

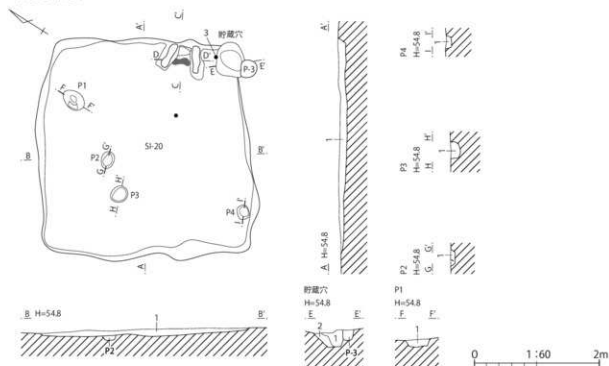
調査区西側に位置する。P-3と重複し、本遺構の方が古い。規模は北東から南西方向で351cm、北西から南東方向で337cm、確認面からの深さは12cmである。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-64°-Eである。断面形は、ほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。床面は直床であるが、明確な硬化面が確認されなかった。覆土はローム粒、ロームブロック、焼土粒を含む黒褐色土が堆積する。

カマドは東壁の南寄りに位置する。全長64cm、幅71cmである。燃焼部は床面と同じ高さである。南東隅の床面で貯蔵穴が検出された。平面形は楕円形で長軸56cm、短軸39cm、床面からの深さは25cmである。黒褐色土が主体で上層には焼土、下層には礫が混じる。ピットは4基検出された。

遺物量は少ない。覆土から土師器の坏と椀、カマドから土師器の高杯が出土している。時期は辻堂編年のⅣ期(5世紀中葉)からⅤ期(5世紀後葉)と考えられる。

第5表 第20号住居跡 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4
平面形	楕円形	楕円形	円形	楕円形
長軸 (cm)	39	28	29	22
短軸 (cm)	27	21	25	18
深さ (cm)	15	7	14	10



## 第20号住居跡土層説明

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1～0.5cm)少量、ロームブロック(1.0～2.0m)、焼土粒(0.1～0.3cm)微量。

## 第20号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1～0.5cm)少量。  
第2層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1～0.5cm)、ロームブロック(1.0～3.0cm)少量。

## 第20号住居跡ピット土層説明 P1

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1～0.5cm)少量、ロームブロック(1.0～3.0cm)含む。

## 第20号住居跡ピット土層説明 P2

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1～0.5cm)少量、ロームブロック(1.0～3.0cm)含む。

## 第20号住居跡ピット土層説明 P3

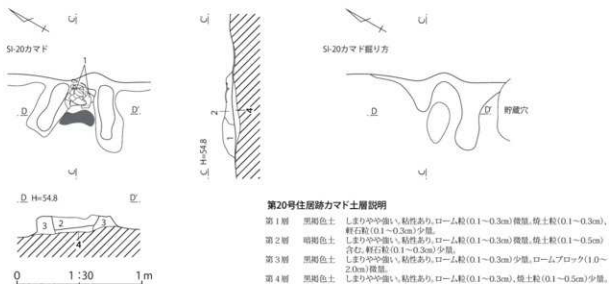
第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1～0.3cm)、ロームブロック(1.0～3.0cm)少量。

## 第20号住居跡ピット土層説明 P4

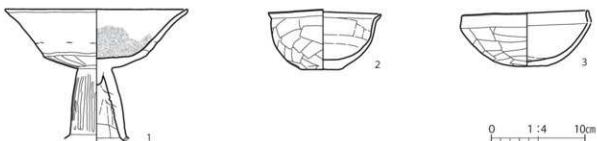
第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1～0.3cm)少量。

第14図 第20号住居跡平面・断面図





第15図 第20号住居跡カマド、カマド掘り方平面・断面図



第16図 第20号住居跡出土遺物図

第6表 第20号住居跡 出土遺物観察表

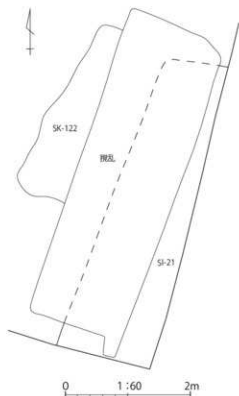
1	土師器 高杯	A. 口径19.2。残存高14.1。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ。坏底部ヘラケズリ。脚部ヘラミガキ。内面、口縁部～体部ナデ。脚部ヘラケズリ。D. 白色粒、雲母。E. 内面一明赤褐色、外面一橙色。F. 裾部欠損。G. 内面体部～底部スス付着。H. カマドNo.1、3、カマド覆土。
2	土師器 椀	A. 口径10.8。底径4.2。器高6.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。D. 白色粒、雲母、角閃石。E. 内外面一橙色。F. 口縁部～底部3/4。H. 覆土。
3	土師器 杯	A. 口径13.2。底径3.7。器高5.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、雲母、角閃石。E. 内外面一橙色。F. 口縁部～底部3/4。H. No.2。

### 第21号住居跡（第17図、写真図版2）

調査区東側に位置する。遺構の重複はみられない。ほぼ攪乱により削平されている。掘り込みはみられず、床面のみが残存する。東と南側は調査区外である。規模は北東から南西方向で502cm以上、北西から南東方向105cm以上である。平面形は隅丸長方形を呈するとみられる。主軸方位は $N-18^{\circ}-E$ である。床面は直床であるが、明確な硬化面が確認されなかった。表土直下で検出され覆土は残っていない。カマド等の施設は検出されなかった。遺物は土師器の小破片が数点出土している。

### 第22号住居跡（第18～21図、第7・8表、写真図版3・6）

調査区中央やや南東に位置する。遺構の重複はみられない。西側の一部を攪乱によって削平されている。規模は北東から南西方向で349cm、北西から南東方向で341cm、確認面からの深さは25cmである。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位は $N-59^{\circ}-E$ である。断面形は、ほぼ垂直に立ち



第17図 第21号住居跡平面図

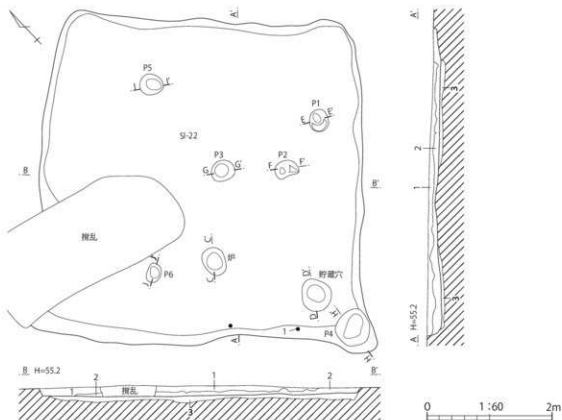
上がり、床面は平坦である。床面は貼床であるが、明確な硬化面が確認されなかった。覆土はローム粒、ロームブロック、焼土粒を含む黒褐色土が堆積する。

炉跡は南側の床面で検出された。平面形は楕円形で長軸43cm、短軸36cm、床面からの深さは6cmである。覆土はローム粒、焼土、炭化物を含む暗褐色土が堆積する。底面に明確な被熱痕はみられない。南東隅の床面で貯蔵穴が検出された。平面形は円形で長軸52cm、短軸47cm、床面からの深さは31cmである。ローム粒を含む黒褐色土が堆積する。ピットは6基検出された。

遺物量は少ない。土師器の坏が出土している。時期は辻堂編年のIV期（5世紀中葉）と考えられる。

第7表 第22号住居跡 ピット計測表

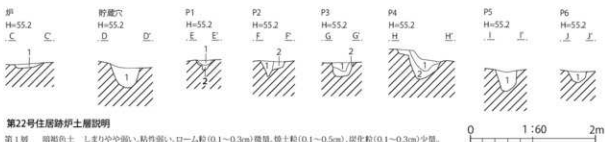
	P1	P2	P3	P4	P5	P6
平面形	円形	楕円形	円形	円形	円形	楕円形
長軸 (cm)	23	39	34	57	38	31
短軸 (cm)	21	29	33	54	33	22
深さ (cm)	20	25	23	35	31	22



第22号住居跡土層説明

- 第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)少量。
- 第2層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)、ロームブロック(1.0~3.0cm)少量。
- 第3層 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)、ロームブロック(1.0~3.0cm)少量。

第18図 第22号住居跡平面・断面図①



**第22号住居跡坪土層説明**

第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)微量、焼土粒(0.1~0.5cm)、炭化粒(0.1~0.3cm)少量。

**第22号住居跡貯蔵穴土層説明**

第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量。

**第22号住居跡ピット土層説明 P1**

第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、炭化粒(0.1~0.3cm)微量。

第2層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)微量。

**第22号住居跡ピット土層説明 P2**

第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、炭化粒(0.1~0.3cm)微量。

第2層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)含む。

**第22号住居跡ピット土層説明 P3**

第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、炭化粒(0.1~0.3cm)微量。

第2層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)微量。

**第22号住居跡ピット土層説明 P4**

第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)少量。

第2層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)、ロームブロック(1.0~3.0cm)少量。

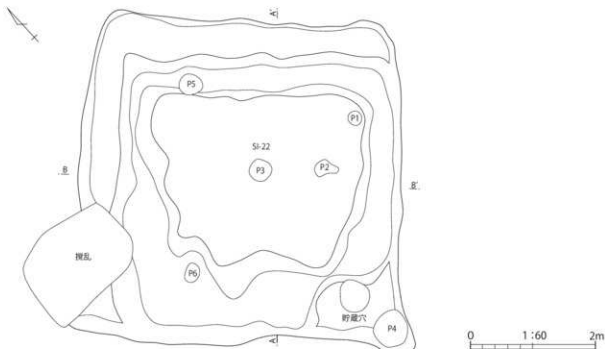
**第22号住居跡ピット土層説明 P5**

第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、炭化粒(0.1~0.3cm)微量。

**第22号住居跡ピット土層説明 P6**

第1層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、炭化粒(0.1~0.3cm)微量。

第19図 第22号住居跡平面・断面図②



第20図 第22号住居跡掘り方平面図



第21図 第22号住居跡出土遺物図

第8表 第22号住居跡 出土遺物観察表

1	土師器 環	A. 口径9.9、底径2.8、器高4.4。B. 粘土綴積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。指頭圧痕。体部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。D. 白色粒、赤色粒、雲母、礫。E. 内外面一橙色。F. 口縁部一部欠損。H. No 1。
---	----------	--

## 第23号住居跡

(第22～27・38～40図、第9・10・17・19～21表、写真図版3・6・7・9～12)

調査区中央やや北東側に位置する。遺構の重複はみられない。南西側を掘乱によって削平されている。北西側は調査区外である。規模は東西方向で600cm、南北方向で533cm、確認面からの深さは32cmである。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-87°-Eである。断面形は、ほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。床面は貼床で、中央部に明確な硬化面が確認された。覆土はローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土が堆積する。

カマドは東壁の南寄りに位置する。全長84cm、幅102cmである。燃焼部は床面よりやや高い位置で確認され、支脚として転用された高環がみられた。南東隅の床面で貯蔵穴が検出された。平面形は円形で、長軸76cm、短軸60cm、床面からの深さは34cmである。ローム粒を含む暗褐色土が堆積する。ピットは5基検出された。P5のみカマドの掘り方で検出された。

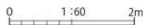


第22図 第23号住居跡平面・断面図①

遺物量は多く、上層から多数の埴輪片、土師器の環、椀、ミニチュア土器、鉢、甌、貯蔵穴からは完形の土師器の高環、甕などが出土している。埴輪は馬形埴輪の破片が大半を占める。馬形埴輪は口、胴、蹄、面繫、鞍、尻繫などの部位が確認出来る。時期は辻堂編年のIV期（5世紀中葉）と考えられる。

第9表 第23号住居跡 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5
平面形	円形	楕円形	楕円形	楕円形	楕円形
長軸 (cm)	31	51	46	34	42
短軸 (cm)	31	(34)	31	23	32
深さ (cm)	11	19	26	11	29



第23号住居跡土層説明

- 第1層 灰黄色土 しまりやや強い、粘性弱い、焼土粒(0.1~0.3cm)微量、As-A(0.1~0.3cm)含む。
- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)、ロームブロック(1.0~2.0cm)微量。
- 第2層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)、ロームブロック(1.0~2.0cm)少量。
- 第3層 暗褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)、ロームブロック(1.0~3.0cm)少量。

第23号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層 暗褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)微量。

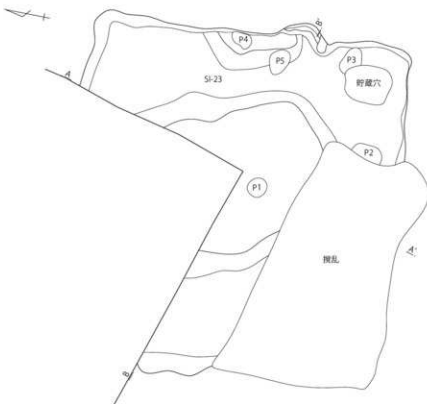
第23号住居跡ピット土層説明 P1

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)、焼土粒(0.1~0.3cm)。

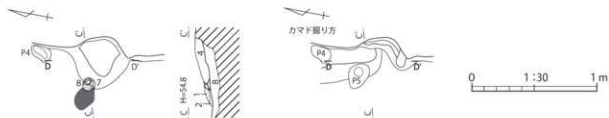
第23号住居跡ピット土層説明 P4

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量。

第23図 第23号住居跡平面・断面図②

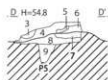


第24図 第23号住居跡掘り方平面図

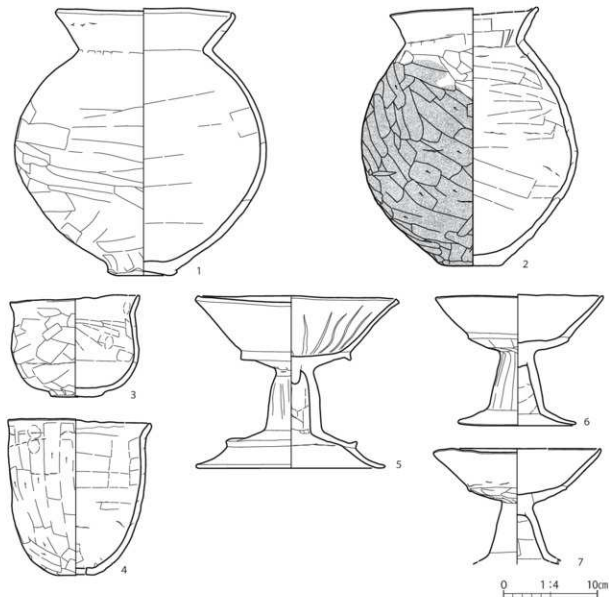


第23号住居跡カマド土層説明

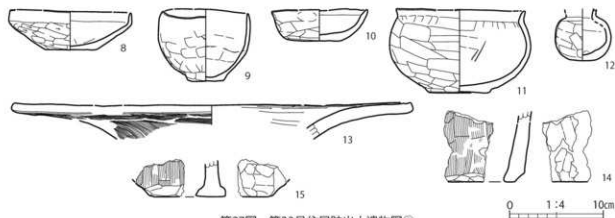
- |     |         |  |
|-----|---------|--|
| 第1層 | 暗褐色土    | しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)微量。                                  |
| 第2層 | 赤褐色土    | しまりやや弱い、粘性強い、焼土粒(0.3~1.0cm)多量。                                   |
| 第3層 | にぶい赤褐色土 | しまりやや弱い、粘性あり、焼土粒(0.3~1.0cm)少量。                                   |
| 第4層 | 暗褐色土    | しまりやや弱い、粘性強い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、焼土粒(0.1~0.3cm)微量。                 |
| 第5層 | にぶい黄褐色土 | しまりやや弱い、粘性あり、焼土粒(0.3~1.0cm)少量。                                   |
| 第6層 | 暗褐色土    | しまりやや弱い、粘性強い、ロームブロック(0.5~1.0cm)、焼土粒(0.1~0.3cm)、炭化粒(0.1~0.3cm)少量。 |
| 第7層 | 灰黄褐色土   | しまりやや弱い、粘性強い、ローム粒(0.1~0.3cm)少量。                                  |
| 第8層 | 黒褐色土    | しまりやや弱い、粘性強い、ローム粒(0.1~0.3cm)少量、焼土粒(0.1~0.5cm)、礫(0.5~2.0cm)含む。    |
| 第9層 | 暗褐色土    | しまりやや弱い、粘性強い、ローム粒(0.1~0.5cm)、ロームブロック(1.0~3.0cm)少量、P5層土。          |



第25図 第23号住居跡カマド、カマド掘り方平面・断面図



第26図 第23号住居跡出土遺物図①



第27図 第23号住居跡出土遺物②

第10表 第23号住居跡 出土遺物観察表

1	土師器 甕	A. 口径 18.3. 底径 7.3. 器高 28.2. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部～胴部上半ヨコナデ. 胴部下半ヘラケズリ. 内面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヘラナデ. D. 白色粒、雲母. E. 内外面～明赤褐色. F. 完形. H. № 57.
2	土師器 甕	A. 口径 15.6. 底径 6.9. 器高 27.2. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヘラケズリ. 内面、ヘラナデ. D. 白色粒、石英、角閃石、礫. E. 内外面～にぶい褐色. F. 完形. G. 外面胴部～底部スス付着. H. 貯蔵穴 № 4.
3	土師器 鉢	A. 口径 13.6. 底径 5.6. 器高 10.8. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ヘラケズリ. 内面、口縁部ヨコナデ. 体部ヘラナデ. 指頭圧痕. D. 白色粒、石英、雲母、角閃石. E. 内外面～にぶい褐色. F. 口縁部一部欠損. H. 貯蔵穴 № 1.
4	土師器 甕	A. 口径 14.9. 底径 4.5. 器高 16.6. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 指頭圧痕. 胴部ヘラケズリ. 内面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヘラナデ. 指頭圧痕. D. 石英、礫. E. 内外面～にぶい黄褐色. F. 口縁部～胴部 4/5 残存. H. № 59. 試験トレンチ 7、10.
5	土師器 高坏	A. 口径 20.9. 底径 19.0. 器高 18.2. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ. 脚部ヘラミガキ. 内面、口縁部～体部ナデ後ヘラミガキ. 脚部ヘラケズリ. D. 白色粒、雲母. E. 内外面～褐色. F. 完形. H. 貯蔵穴 № 5.
6	土師器 高坏	A. 口径 17.5. 底径 12.3. 器高 13.9. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ. 坯底部～脚部ヘラケズリ. 内面、口縁部～体部ナデ. 脚部ヘラケズリ. D. 白色粒、石英、雲母、チャート. E. 内外面～褐色. F. 完形. H. 貯蔵穴 № 6.
7	土師器 高坏	A. 口径 17.5. 残存高 11.9. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ. 坯底部ヘラケズリ. 脚部ナデ. 内面、口縁部～体部ナデ. 脚部ヘラケズリ. D. 白色粒、雲母. E. 内面～褐色. 外面～にぶい褐色. F. 口縁部一部欠損. 裾部欠損. H. カマド № 2.
8	土師器 坏	A. 口径 12.2. 底径 5.2. 器高 4.2. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ヘラケズリ. 内面、ナデ. D. 白色粒、石英、礫. E. 内外面～褐色. F. 口縁部一部欠損. H. カマド № 1.
9	土師器 椀	A. 口径 9.0. 底径 3.2. 器高 7.6. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ヘラケズリ. 内面、体部ヘラナデ. D. 白色粒、雲母. E. 内面～明赤褐色. 外面～褐色. F. 完形. H. № 65.
10	土師器 坏	A. 口径 10.1. 底径 6.2. 器高 3.4. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 指頭圧痕. 体部ヘラケズリ. 内面、ナデ. D. 白色粒、雲母、角閃石、礫. E. 内外面～褐色. F. 完形. H. № 56.
11	土師器 鉢	A. 口径 13.6. 底径 6.4. 器高 8.8. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 指頭圧痕. 体部ヘラケズリ. 内面、口縁部ヨコナデ. 体部ヘラナデ. 指頭圧痕. D. 白色粒、雲母、角閃石. E. 内外面～褐色. F. 完形. H. № 63.
12	土師器 ミニチュア 土器	A. 底径 2.5. 残存高 5.5. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヘラケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒、雲母. E. 内外面～にぶい褐色. F. 口縁部一部欠損. H. № 52.
13	朝顔形埴輪	A. 復元口径 42.5. 残存高 3.9. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、1次タテハケ. 口縁部2次ヨコハケ. 内面、ナデ. D. 白色粒、石英、礫. E. 内外面～にぶい黄褐色. G. 内面黒斑. H. № 34、45、46、47、49. 覆土、S119 覆土.
14	馬形埴輪 跡	A. 残存高 7.5. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、タテハケ. 下端部ナデ、ヘラケズリ. 内面、ナデ. 指頭圧痕. D. 角閃石、礫. E. 内外面～にぶい黄褐色. G. 外面下端に蹄の切り込みあり. H. 覆土.
15	馬形埴輪 跡	A. 残存高 4.0. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、タテハケ. 下端部ナデ、ヘラケズリ. 内面、ナデ. 指頭圧痕. D. 礫. E. 内外面～にぶい黄褐色. G. 外面下端に蹄の切り込みあり. H. 覆土.

第24号住居跡 (第28～30図、第11・12表、写真図版3・8)

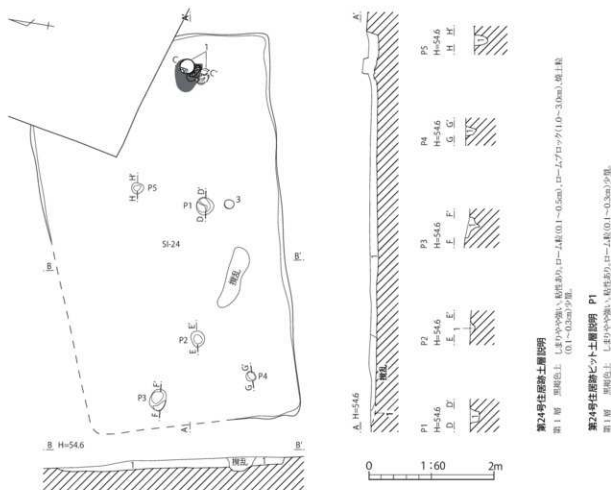
調査区西側に位置する。遺構の重複はみられない。掘り込みが浅く、北西側の壁は残存していない。北東側は調査区外である。規模は北東から南西方向で612cm、北西から南東方向で方向312cm、確

認面からの深さは14cmである。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-72°-Eである。断面形は、ほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。床面は直床で、明確な硬化面が確認されなかった。覆土はローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土が堆積する。

カマドは東壁の南寄りに位置する。燃焼部と袖部の一部のみ残存している。全長53cm以上、幅40cm以上である。燃焼部は床面よりやや高い位置で確認され、支脚として転用され

第11表 第24号住居跡 ビット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5
平面形	円形	楕円形	楕円形	円形	円形
長軸 (cm)	27	26	35	16	19
短軸 (cm)	27	21	25	15	17
深さ (cm)	10	7	20	17	21



第24号住居跡ビット土層説明 P2

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)少量。

第24号住居跡ビット土層説明 P4

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)少量。

第24号住居跡ビット土層説明 P3

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)少量。

第24号住居跡ビット土層説明 P5

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)少量。

第28図 第24号住居跡平面・断面図



第24号住居跡カマド土層説明

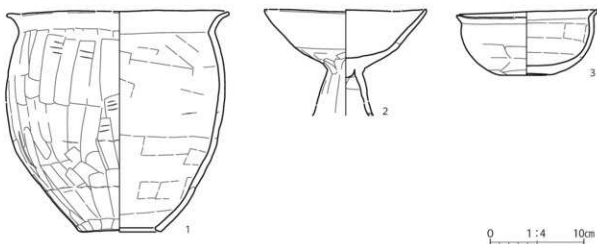
第1層 にぶい、黄褐色土 しまり強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)、炭化粒(0.1~0.3cm)少量、焼土粒(0.3~3.0cm)含む。

第29図 第24号住居跡カマド平面・断面図



た高坏がみられた。ピットは5基検出された。

遺物は少ないが、カマドからは土師器の高坏や甗が出土している。時期は辻堂編年のⅣ期（5世紀中葉）と考えられる。



第30図 第24号住居跡出土遺物図

第12表 第24号住居跡 出土遺物観察表

1	土師器 甗	A. 口径23.4。底径8.4。器高23.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D. 白色粒、石英、雲母。E. 内外面一橙色。F. 口縁部→胴部上半1/2欠損。H. No 2、3、覆土。
2	土師器 高坏	A. 口径16.9。残存高11.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ。坏底部ヘラケズリ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒、石英、雲母。E. 内面一橙色、外面一にふい橙色。F. 脚部欠損。H. カマドNo 1。
3	土師器 椀	A. 口径14.8。底径5.5。器高6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。後ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。D. 白色粒、石英、雲母、長石。E. 内外面一橙色。F. 完形。H. No 1。

第25号住居跡（第31～33・38～40図、第13・14・17表、写真図版3・8・9）

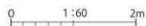
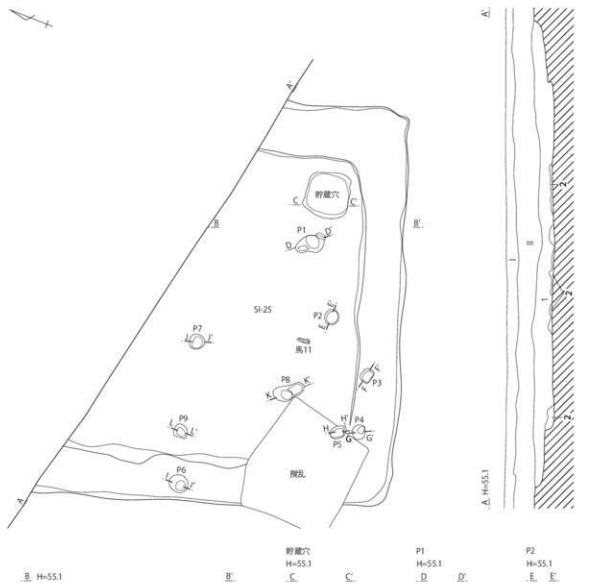
調査区西側に位置する。遺構の重複はみられない。南西側を攪乱によって削平されている。規模は北東から南西方向で612cm、北西から南東方向で600cm以上、確認面からの深さは28cmである。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-74°-Eである。断面形は、ほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。床面は直床で、中央部に硬化面が確認された。覆土はローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土が堆積する。

南東隅の床面で貯蔵穴が検出された。平面形は方形で長軸62cm、短軸60cm、床面からの深さは60cmである。ローム粒を含む黒褐色土が堆積する。東西及び、南壁沿いには幅60～80cm、確認面からの深さ15cmのテラス状施設が確認された。北側が調査区外であるが、北壁までテラス状施設が繋がる可能性がある。ピットは9基検出された。カマドや竈は検出されなかった。

遺物は土師器の小破片が多い。土師器の椀、埴輪片が出土している。埴輪片は馬形埴輪の尾とみられ、第23号住居跡から出土した馬形埴輪と同一個体である。時期は辻堂編年のⅢ期（5世紀前葉）と考えられる。

第13表 第25号住居跡 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
平面形	楕円形	円形	長方形	楕円形	楕円形	円形	円形	楕円形	円形
長軸 (cm)	47	25	22	24	23	30	24	50	22
短軸 (cm)	20	21	16	19	19	28	22	24	21
深さ (cm)	28	10	7	21	7	26	36	20	21



**第25号住居跡土層説明**

- 第1層 灰青褐色土 しまりやや強い、粘性弱い、焼土粒(0.1~0.3cm)微量、AsA(0.1~0.3cm)含む。  
 第2層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、炭化粒(0.1~0.3cm)微量。  
 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)少量、焼土粒(0.1~0.5cm)微量。  
 第2層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)少量、ロームブロック(1.0~3.0cm)含む。

**第25号住居跡貯蔵穴土層説明**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム粒(0.1~0.3cm)、焼土粒(0.1~0.3cm)少量、ロームブロック(0.5~3.0cm)含む。

**第25号住居跡ピット土層説明 P1**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

**第25号住居跡ピット土層説明 P2**

- 第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

第31図 第25号住居跡平面・断面図①

P3 H=55.1 F F	P4 H=55.1 G G	P5 H=55.1 H H	P6 H=55.1 I I	P7 H=55.1 J J	P8 H=55.1 K K	P9 H=55.1 L L
---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------



第25号住居跡ピット土層説明 P3

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

第25号住居跡ピット土層説明 P4

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

第25号住居跡ピット土層説明 P5

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

第25号住居跡ピット土層説明 P6

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

第25号住居跡ピット土層説明 P7

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

第25号住居跡ピット土層説明 P8

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

第25号住居跡ピット土層説明 P9

第1層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ロームブロック(0.5~2.0cm)少量。

第32図 第25号住居跡平面・断面図②



第33図 第25号住居跡出土遺物図

第14表 第25号住居跡 出土遺物観察表

1	土師器 高坏	A. 復元口径 20.6, 残存高 7.9, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部~脚部ナデ, 内面、口縁部~ 体部ナデ, D. 白色粒、雲母、角閃石, E. 内外面~褐色, F. 口縁部~体部 1/4 残存, 脚部欠損, H. 覆土。
---	-----------	---

## 2. 土坑

### 第122号土坑(第34図、写真図版4)

調査区東側に位置する。遺構の重複はみられない。攪乱によって東側が削平されている。規模は長軸 301cm、短軸 92cm以上、確認面からの深さは 11cmである。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位は  $N - 28^\circ - E$  である。底面はほぼ平坦である。覆土はローム粒を含む黒褐色土が堆積する。

遺物は土師器片が出土しているが、小破片のため明確な時期は不明である。

### 第123号土坑(第34図、写真図版4)

調査区東側に位置する。第124号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。規模は長軸 103cm、短軸 100cm、確認面からの深さは 12cmである。平面形は円形を呈する。主軸方位は  $N - 25^\circ - W$  である。底面は平坦である。覆土はローム粒を含む黒褐色土が堆積する。

遺物は出土していない。第124号土坑を切ることから5世紀中葉よりも新しい時期に比定される。

## 第124号土坑（第34～36・41・42図、第15・18・22表、写真図版4・8～10・12）

調査区東側に位置する。第19号住居跡、第123・126号土坑と重複し、本遺構の方が第19号住居跡より新しく、第123・126号土坑よりも古い。規模は長軸303cm、短軸171cm、確認面からの深さは15cmである。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-51°-Wである。底面は平坦で、埴輪が出土した西側の一部に被熱痕が確認出来る。覆土はローム粒、焼土、炭化物を含む黒褐色土が堆積する。

遺物は土師器片や多量の埴輪が出土している。埴輪は円筒埴輪、朝顔形埴輪、家形埴輪が確認出来る。朝顔形埴輪の外周はタテハケ調整で、突帯は明瞭な台形を呈する。家形埴輪の外周はタテハケ調整である。入口部には縦の沈線と刺突、突帯状の廂がみられる。廂は明瞭な台形を呈する。図示はしていないが、円筒埴輪には黒斑がみられる。第19号住居跡を切ることから5世紀中葉よりも新しい時期に比定される。

## 第125号土坑（第34図、写真図版4）

調査区中央南側に位置する。遺構の重複はみられない。規模は長軸153cm、短軸143cm、確認面からの深さは33cmである。平面形は円形を呈する。主軸方位はN-64°-Eである。底面は平坦である。覆土は上層にローム粒、焼土を含む黒褐色土、下層にローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土が堆積する。

遺物は土師器片が少量出土しているが、小破片のため明確な時期は不明である。

## 第126号土坑（第34図、写真図版4）

調査区東側に位置する。第19号住居跡、第124号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。規模は長軸144cm、短軸120cm、確認面からの深さは33cmである。平面形は円形を呈する。主軸方位はN-38°-Eである。底面は平坦である。覆土はローム粒を含む黒褐色土が堆積する。

遺物は出土していない。第19号住居跡を切ることから5世紀中葉よりも新しい時期に比定される。

## 第127号土坑（第34図、写真図版4）

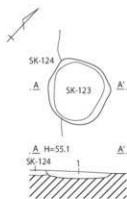
調査区東側に位置する。第19号住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。規模は長軸102cm、短軸100cm、確認面からの深さは26cmである。平面形は円形を呈する。主軸方位はN-18°-Wである。底面は平坦である。覆土はローム粒を含む黒褐色土が堆積する。

遺物は出土していない。第19号住居跡を切ることから5世紀中葉よりも新しい時期に比定される。



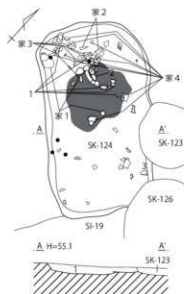
第122号土坑土層説明

第1層 黒褐色土  
しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量。



第123号土坑土層説明

第1層 黒褐色土  
しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量。  
軽石粒(0.1~0.3cm)微量。



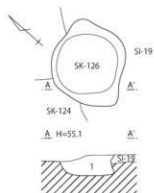
第124号土坑土層説明

第1層 黒褐色土  
しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)、ロームブロック(1.0~3.0cm)少量、焼土粒(0.1~0.3cm)微量。



第125号土坑土層説明

第1層 黒褐色土  
しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.3cm)少量、焼土粒(0.1~0.3cm)微量。  
第2層 暗褐色土  
しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量、ロームブロック(1.0~3.0cm)微量。



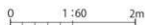
第126号土坑土層説明

第1層 黒褐色土  
しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量。

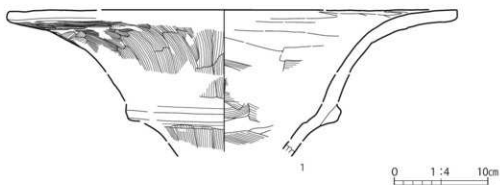


第127号土坑土層説明

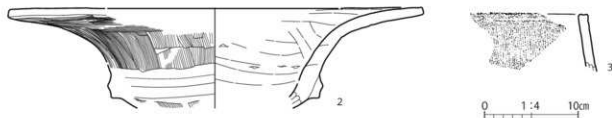
第1層 黒褐色土  
しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(0.1~0.5cm)少量。



第34図 第122号土坑～第127号土坑平面・断面図



第35図 第124号土坑出土遺物図①



第36図 第124号土坑出土遺物図②

第15表 第124号土坑 出土遺物観察表

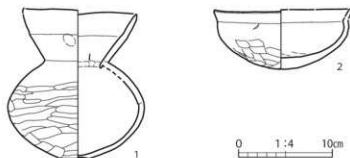
1	朝顔形埴輪	A. 復元口径 47.7. 残存高 15.4. B. 粘土組織み上げ. C. 外面, 1次タテハケ、口縁部2次ナメハケ。3次ヨコハケ。突帯部ナデ。内面, 上半ナデ。下半ヨコハケ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面にぶい黄橙色。H. № 19、20、21、23、32、43、覆土、SI19 覆土。
2	朝顔形埴輪	A. 復元口径 44.0. 残存高 10.5. B. 粘土組織み上げ. C. 外面, 1次タテハケ、口縁部2次ヨコハケ。突帯部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面にぶい黄橙色。G. 内面黒斑。H. № 22、覆土。
3	埴輪	A. 残存高 6.0. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、タテハケ。口縁部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面にぶい黄褐色。G. 内外面黒斑。H. № 10

### 3. ビット

調査区外の西側で3基検出された。P-1の規模は長軸31cm、短軸28cm、確認面からの深さは25cmである。平面形は円形を呈する。土師器の小破片が1点出土している。P-2の規模は長軸42cm、短軸31cm、確認面からの深さは21cmである。平面形は楕円形を呈する。土師器の小破片が1点出土している。P-3の規模は長軸28cm、短軸25cm、確認面からの深さは41cmである。平面形は円形を呈する。第20号住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。

### 4. 遺構外出土遺物

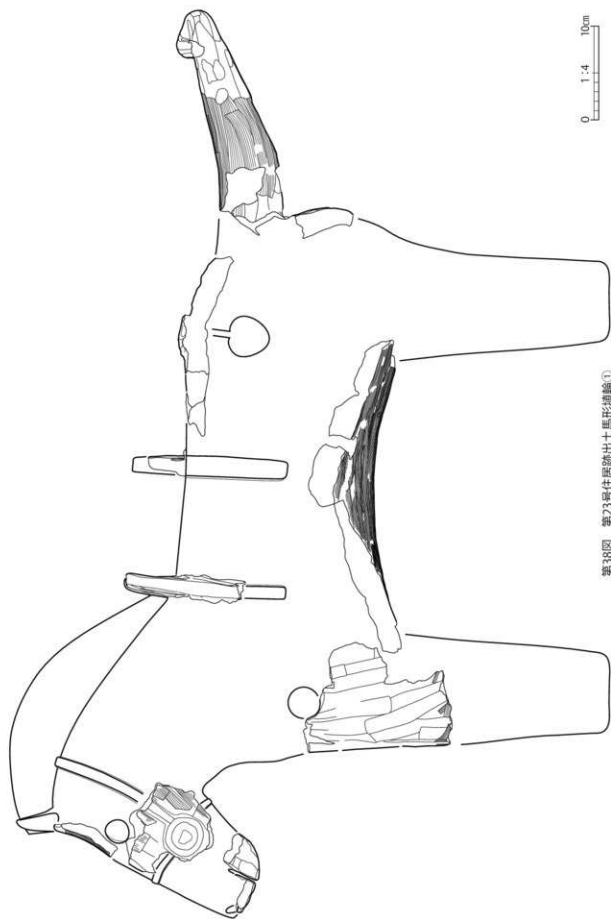
土師器の坏と埴を图示した。いずれも調査区全体を横断する試掘トレンチから出土している。埴は第23号住居跡の覆土から出土した破片と接合しており、第23号住居跡に属する可能性が高い。



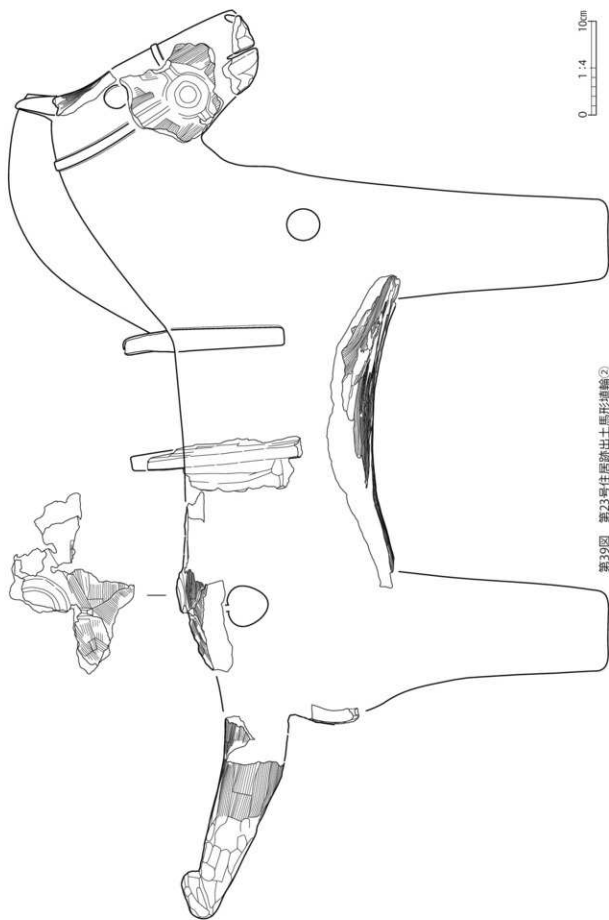
第37図 遺構外出土遺物図

第16表 遺構外 出土遺物観察表

1	土師器埴	A. 口径120. 底径29. 器高15.8. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ナデ。胴部下半～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外面～橙色。F. 口縁部1/4欠損。H. 試掘3トレンチ、SI23 覆土。
2	土師器坏	A. 口径14.4. 器高6.3. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、雲母。E. 内外面～橙色。F. 口縁部～体部一部欠損。H. 試掘3トレンチ。

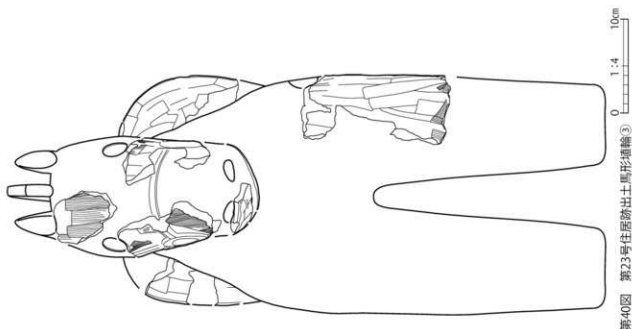


第38図 第23号住居跡出土馬形埴輪①



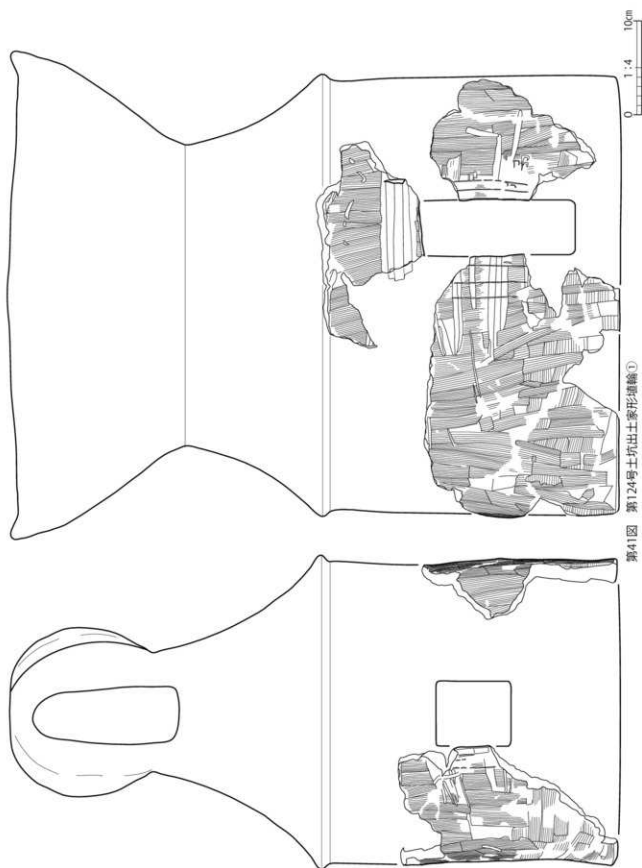
第399図 第23号住居跡出土馬形埴輪②



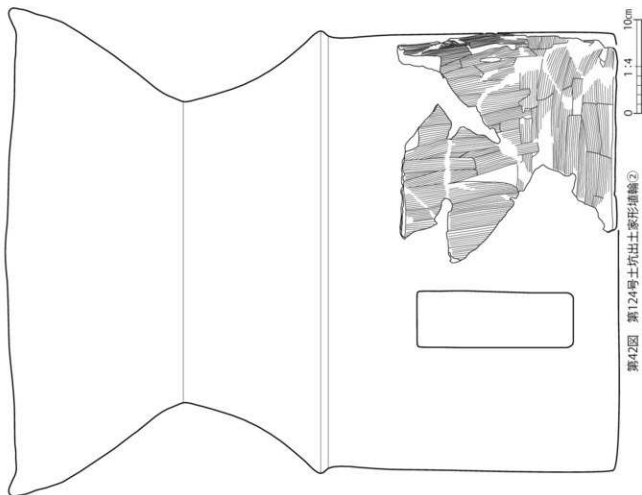


第17表 第23号住居跡出土馬形埴輪 遺物観察表

馬1	馬形埴輪 腹部	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、1次ヨコハケ。2次タテハケ。内面、輪積痕。ナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. No 17、28、覆土。
馬2	馬形埴輪 面繫 (左側面)	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。面繫部ナデ。内面、輪積痕。ナデ。指頭圧痕。D. 白色粒、黒色粒、石英、雲母。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. No 17、28、57。
馬3	馬形埴輪 面繫 (右側面)	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。面繫部ナデ。内面、輪積痕。ナデ。指頭圧痕。D. 白色粒、黒色粒、石英、雲母。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. No 22、覆土。
馬4	馬形埴輪 口 (上顎)	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヘラケズリ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、赤色粒。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. No 28。
馬5	馬形埴輪 口 (下顎)	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。指頭圧痕。D. 白色粒、赤色粒。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. No 48。
馬6	馬形埴輪 耳	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。指頭圧痕。D. 白色粒、石英。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. 覆土。
馬7	馬形埴輪 胸前	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコハケ。タテハケ。タテヘラケズリ。内面、ナデ。輪積痕。指頭圧痕。D. 白色粒、角閃石。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. No 21、28、覆土。
馬8	馬形埴輪 鞍 (前輪)	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外面一にぶい黄橙色。G. 下端部穿孔。H. No 30、66、覆土。
馬9	馬形埴輪 鞍 (後輪)	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. No 57、覆土。
馬10	馬形埴輪 尻蓋	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ハケ。内面、ナデ。輪積痕。D. 白色粒、角閃石、礫。E. 内外面一にぶい黄橙色。H. No 18、22、28、覆土。
馬11	馬形埴輪 尾	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ハケ。ヘラケズリ。内面、ナデ。輪積痕。D. 白色粒、黒色粒、雲母。E. 内外面一にぶい黄橙色。G. 尾の下に穿孔あり。H. No 1、覆土、SI25 No 1。



第41図 第124号土坑出土家形埴輪①



第18表 第124号土坑出土家形埴輪 遺物観察表

家1	家形埴輪 出入口左	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、1次ヨコハケ、2次タテハケ後棒状工具によるヨコナデ。縦沈線3条。内面、ヨコヘラケズリ。ナデ。輪積痕。指頭圧痕。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面-に ぶい黄橙色。H. №15、26、46。
家2	家形埴輪 廂	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、タテハケ。廂部ナデ。内面、ヨコヘラケズリ。ナデ。輪積痕。 D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面-にぶい黄橙色。H. №23、38。
家3	家形埴輪 出入口右	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、1次ヨコハケ、2次タテハケ後棒状工具によるヨコナデ。縦 沈線2条。内面、ヨコヘラケズリ。ナデ。輪積痕。指頭圧痕。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面- にぶい黄橙色。H. №25、27、33、34。
家4	家形埴輪 窓周辺	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、上半タテハケ。下半ヨコハケ。棒状工具によるヨコナデ。縦 沈線2条。内面、ヨコヘラケズリ。ナデ。輪積痕。D. 白色粒、石英、角閃石、礫。E. 内外面-にぶ い黄橙色。H. №16、18、24、31、37、40、42、44、45、覆土。

第19表 第23号住居跡 出土遺物観察表(写真掲載のみ)①

1	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒。E. 内面-明黄褐色、外面 -灰黄褐色。H. 覆土。
2	朝顔形埴輪	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ヨコハケ。D. 白色粒、礫。E. 内 外面-にぶい黄橙色。H. 覆土。
3	馬形埴輪 頭部か	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面- にぶい黄橙色。H. №24。
4	馬形埴輪 頭部か	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ナデ。輪積痕。D. 白色粒、黑色粒、 礫。E. 内外面-にぶい黄橙色。H. №39。
5	馬形埴輪 頭部か	A. 一。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面-にぶ い黄橙色。H. №4、6、覆土。

第20表 第23号住居跡 出土遺物観察表(写真掲載のみ)②

6	馬形埴輪 頭部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナナメハケ。突帯部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №14。
7	馬形埴輪 胴部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナナメハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №3, 7, 覆土。
8	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №16。
9	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №41。
10	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、チャート、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
11	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №37。
12	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコハケ。ナデ。内面、ナデ。輪痕。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №19。
13	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №32。
14	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英。E. 内面一明黄褐色、外面一にぶい黄褐色。H. №35。
15	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №28。
16	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №66。
17	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
18	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英。E. 内面一明黄褐色、外面一褐色。H. №21。
19	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。輪痕。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №34、覆土、SK124 №12。
20	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
21	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
22	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №31。
23	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
24	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №20、66。
25	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナナメハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内面一にぶい黄褐色、外面一褐色。H. №28。
26	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №22。
27	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №28。
28	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコハケ。ナナメハケ。内面、ナデ。輪痕。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №38、覆土。
29	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、1次タテハケ。2次ヨコハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №40。
30	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №26。
31	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。輪痕。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №12、66、覆土。
32	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、1次タテハケ。2次ヨコハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内面一明黄褐色、外面一灰黄褐色。H. №43、50。
33	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №15。
34	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
35	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。

第21表 第23号住居跡 出土遺物観察表(写真掲載のみ)③

36	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一に ぶい黄褐色。H. №28。
37	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内 外面一にぶい黄褐色。H. №13。
38	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナメハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、雲 母、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №25。
39	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄 褐色。H. №66。
40	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄 褐色。H. 覆土。
41	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面 一にぶい黄褐色。H. №5。
42	馬形埴輪 脚部	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、1次ナメハケ。2次タテハケ。内面、ナデ。輪積痕。D. 白色粒、 礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №42、51。
43	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、礫。E. 内外 面一にぶい黄褐色。H. №23。
44	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶ い黄褐色。H. 覆土。
45	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内面一にぶい 黄褐色、外面一褐色。H. №29。
46	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、赤色粒、礫。E. 内外 面一にぶい黄褐色。H. №9。
47	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内面一 にぶい黄褐色、外面一褐色。H. №29。
48	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶ い黄褐色。H. №2。
49	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナメハケ。ヨコハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内 外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
50	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶ い黄褐色。H. №8。
51	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄 褐色。H. 覆土。
52	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ナデ。輪積痕。D. 白色粒、礫。E. 内 外面一にぶい黄褐色。H. №11。
53	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶ い黄褐色。H. 覆土。
54	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内面一にぶい 黄褐色、外面一褐色。H. №10。
55	馬形埴輪 尾か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、礫。E. 内外面一 にぶい黄褐色。H. 覆土。
56	馬形埴輪 尾か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面 一にぶい黄褐色。H. №23。
57	馬形埴輪 前輪/後輪か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内面一にぶい褐色、 外面一黒褐色。H. 覆土。
58	馬形埴輪 前輪/後輪か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。突帯部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内 面一にぶい褐色、外面一褐色。H. №27。
59	馬形埴輪 被爪か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一に ぶい黄褐色。H. 覆土。
60	馬形埴輪 障泥か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一に ぶい黄褐色。H. №36。

第22表 第124号土坑 出土遺物観察表(写真掲載のみ)

1	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №14。
2	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内面一灰黄褐色、外面一にぶい黄褐色。H. №3、覆土。
3	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英。E. 内面一にぶい黄褐色、外面一黒褐色。H. №6。
4	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、礫。E. 内面一黒褐色、外面一灰黄褐色。H. №13。
5	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、長石、礫。E. 内面一にぶい黄褐色、外面一灰黄褐色。H. 覆土。
6	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、長石、礫。E. 内面一にぶい黄褐色、外面一灰黄褐色。H. №7。
7	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内面一にぶい黄褐色、外面一灰黄褐色。H. 覆土。
8	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。ナデ。内面、破損。D. 白色粒。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
9	円筒埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №5。
10	朝顔形埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコハケ。タテハケ。内面、ナデ。輪痕。D. 白色粒、雲母。E. 内外面一にぶい黄褐色。G. 内面黒斑。H. №44、45。
11	朝顔形埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ヨコハケ。ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内面一黒褐色、外面一にぶい黄褐色。H. 覆土。
12	朝顔形埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ヨコハケ。D. 白色粒、黒色粒、礫。E. 内面一褐色、外面一にぶい黄褐色。H. №35。
13	朝顔形埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ヨコハケ。D. 白色粒、雲母。E. 内面一褐色、外面一にぶい黄褐色。H. №30。
14	朝顔形埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ハケ。内面、ハケ。D. 白色粒、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №44。
15	朝顔形埴輪	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ヨコハケ。D. 白色粒、石英。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №4、覆土。
16	家形埴輪 壁	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコハケ。ナデ。内面、ナデ。D. 石英、雲母。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №11。
17	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコハケ。ナデ。内面、ナデ。輪痕。D. 白色粒、礫。E. 内面一明黄褐色、外面一灰黄褐色。H. №39。
18	馬形埴輪 体部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコハケ。ナメハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №12。
19	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、礫。E. 内面一にぶい黄褐色、外面一褐色。H. 覆土。
20	馬形埴輪 脚部か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、タテハケ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。G. 内面黒斑。H. №15。
21	馬形埴輪 鞍か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №36。
22	馬形埴輪 障泥か	A. 一。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒。E. 内外面一にぶい黄褐色。H. №28。

## 第IV章 まとめ

今回の調査では竪穴住居跡が8軒、土坑が6基、ピットが3基検出された。竪穴住居跡の時期は古墳時代中期前葉が1軒、中期中葉が5軒、中期中葉から後葉が1軒、時期不明が1軒である。

第18号住居跡のピットは住居内に12基、住居外に2基検出された。住居内のピットは東西に長い梁間2間×桁行3間の総柱建物を構成し、住居外のピットは廂などの付属施設と考えられる。側柱が本遺構の壁際に一致し、南北方向の土層断面からピットが本遺構の埋没後に掘り込まれていないことが確認されたため、本住居跡に伴う総柱建物と判断した。総柱により屋内の生活スペースが狭小となるため、作業小屋など住居跡ではない別の施設の可能性が考えられる。上屋構造は不明であるが、カマドを有し床面に硬化面が認められるなど通常の竪穴住居跡と変わらない特徴をもつことから、本遺構を竪穴住居跡として取り扱った。

第25号住居跡は東西及び南壁沿いにはテラス状施設が確認されている。カマドの両脇に設けられ、家財道具などを置く収納スペースとされる棚架施設とは異なり、幅が60～80cmと広く、寝所や通路などの生活スペースとして活用されていたと考えられている（桐生 2005）。

第23号住居跡から出土した大量の埴輪片は、住居跡の中央部から集中して出土している。出土層位は、覆土の上層であり、住居跡の埋没途中で廃棄されたものと考えられる。埴輪片はその大半が馬形埴輪片であり、胎土にいずれも砂礫を含み、器壁の表面が赤みの薄いにぶい黄橙色を呈し、断面に黒色帯をサンドイッチ状に挟む。この特徴は、近隣の旭・小島古墳群の三奈山8号墳などから出土した埴輪でも認められる（太田氏のご教示による）。また馬形埴輪の製作技法は、仁徳天皇陵古墳の馬形埴輪の技法に類似し、関東では生野山9号墳と群馬県の保渡田古墳群の二子山古墳の馬形埴輪に類似する。時期は、二子山古墳の馬形埴輪よりも古く、大型化していることから仁徳天皇陵古墳以降と考えられ、5世紀第二四半世紀と推定される。多工程製作技法で製作されていることから畿内との関連が指摘される（井上氏のご教示による）。なお馬形埴輪片の中には、脚部の径の大きさが異なるものもあり、一団体のみではなく、複数個体が廃棄されたと考えられる。

第23号住居跡と近接する第124号土坑からは円筒埴輪、朝顔形埴輪、家形埴輪などが出土している。一部の埴輪には野焼きや覆い焼きの際に出来る黒斑が認められており、竈窯導入前の遺物と考えられる。第124号土坑の底面には被熱痕や炭化物が確認されるが、被熱痕は弱く、覆土に混入している焼土、炭化物は少量である。竈窯導入以前の埴輪焼成土坑は出土例が少なく、奈良県奈良市平城宮跡東院地区、三重県鈴鹿市石塚遺跡などが挙げられるが、これらの遺跡で認められた生焼けの埴輪片や窯壁ないし覆い土の部材片などが第124号土坑から出土していないなど、埴輪焼成土坑の可能性は低いと考えられる。出土した埴輪は、砂礫を含み、赤みの薄い色調、中黒構造の器壁断面と、第23号住居跡の馬形埴輪や旭・小島古墳群の埴輪と同じ特徴を有する。家形埴輪は、屋根部分が出土しなかったため、屋根の構造は不明である。復元実測図では、旭・小島古墳群の石神境古墳出土の家形埴輪を参考に、入母屋式の屋根とした。

第18号住居跡から出土した有孔の板状土製品片（No.3）は、穿孔を有し、やや曲線を描く形状や、先端に小さな突起を有する点が、西富田遺跡で出土した馬形土製模造品の臀部分に似ていると判断したため、馬形の土製模造品とした。西富田遺跡の馬形土製模造品に比べ厚みがないため、肛門等の表現はない。薄い板状の馬形は、立体的に表現される馬形土製模造品（土馬）よりも、石製模造品や木製の馬形代に近いと考えられる。

## ＜参考文献＞

## 児玉町遺跡調査会報告書

恋河内昭彦 2005『後張遺跡Ⅲ－C地点－』第20集

## 児玉町文化財調査報告書

恋河内昭彦 1996『辻堂遺跡Ⅰ』第19集

## 東五十子遺跡調査会

太田博之 2002『東五十子・川原町』

## 本市市文化財調査報告書

『二本松遺跡発掘調査報告書』第5集1分冊

長谷川勇・石橋桂一他 1985『夏目遺跡発掘調査報告書』第5集2分冊

長谷川勇・石橋桂一他 1987『社具路遺跡発掘調査報告書（本文編・図版編）』第5集3分冊

長谷川勇他 1986『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ－社具路遺跡Ⅱ・三全山1号～6号』第8集

増田一裕 1985『四方田・後張遺跡群発掘調査報告書』第14集

## 本市市埋蔵文化財調査報告書

太田博之・有山径世・山本千春 2006『今井原屋敷遺跡－第4地点－』第4集

恋河内昭彦・松本完 2008『七色塚遺跡Ⅱ（B1地点）・北堀新田前遺跡（A1地点）』第7集

太田博之 2008『雌塚遺跡』第12集

太田博之 2009『雌塚Ⅱ・笠ヶ谷戸・小島本伝』第15集

石丸敦史 2009『薬師元屋舖遺跡Ⅱ－第2地点第2次調査－』第17集

恋河内昭彦・の野善行 2010『北堀久下塚北遺跡Ⅱ（B地点）・久下東遺跡Ⅳ（C1・D1・E1地点）・久下前遺跡Ⅱ（A1・B1地点）』第19集

大熊季広 2010『小島本伝遺跡Ⅱ－C地点一、旭・小島古墳群一林6・7号墳D地点一』第20集

佐々木藤雄 2010『北堀新田遺跡』第22集

松本完・の野善行 2010『久下前遺跡（C1地点）・北堀新田遺跡Ⅱ（A1地点）・有勝寺北東遺跡（A1地点・B1地点）』第23集

松本完・町田奈緒子 2002『久下前遺跡第3地点発掘調査報告書』第25集

松本完・太田博之・町田奈緒子 2004『東本庄』第29集

恋河内昭彦・の野善行 2014『七色塚（B2地点）北堀久下塚北遺跡Ⅲ（C・D地点）久下東遺跡Ⅶ（A2・B2・B3・F2地点）有勝寺北東遺跡Ⅳ（C地点）』第37集

太田博之 2014『石神境遺跡・天神林Ⅱ遺跡』第38集

松本完他 2015『北堀新田前遺跡Ⅱ（A2・A3地点）・北堀新田遺跡Ⅳ（A2・B地点）・久下東遺跡Ⅷ（G3地点）』第44集

恋河内昭彦 2019『久下東遺跡（G2・H地点）』第57集

松本完・の野善行他 2019『薬師堂東遺跡Ⅱ（C・D地点）』第58集

恋河内昭彦 2019『小島仕切沢遺跡』第60集



**本庄市遺跡調査会報告書**

- 増田一裕 1996『社具路遺跡第9地点発掘調査報告書』第5集  
和久裕昭・有山徑世 2004『社具路遺跡一第4地点一』第7集  
和久裕昭・有山徑世 2004『社具路遺跡一第13地点一』第10集  
高林真人 2010『後張遺跡Ⅳ-D地点の調査一』第35集  
高林真人 2011『後張遺跡Ⅴ-E地点の調査一』第40集

**埼玉県埋蔵文化財調査報告書**

- 増田逸郎・立石盛詞 1982『後張』第15集  
増田逸郎・立石盛詞 1983『後張』第26集  
大谷徹 2007『夏目/夏目西/弥藤次』第346集

**埼玉県遺跡発掘調査報告書**

- 増田逸郎他 1979『下田・諏訪』第21集

**早稲田大学本庄校地文化財調査室編**

- 早稲田大学本庄校地文化財調査室 1980『大久保山Ⅰ』  
早稲田大学本庄校地文化財調査室 1984『早稲田大学本庄校地埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ』  
早稲田大学本庄校地文化財調査室 1993『大久保山Ⅱ』  
早稲田大学本庄校地文化財調査室 1995『大久保山Ⅲ』  
早稲田大学本庄校地文化財調査室 1996『大久保山Ⅳ』  
早稲田大学本庄校地文化財調査室 1999『大久保山Ⅴ』  
早稲田大学本庄校地文化財調査室 1998『大久保山Ⅵ』  
早稲田大学本庄校地文化財調査室 1999『大久保山Ⅶ』

**早稲田大学本庄考古資料館編（早稲田大学本庄考古資料館刊行）**

- 早稲田大学本庄考古資料館 2000『大久保山Ⅷ』  
早稲田大学本庄考古資料館 2001『大久保山Ⅸ』  
早稲田大学本庄考古資料館 2001『大久保山Ⅹ』

**その他**

- 桐生直彦 2005『竈をもつ竪穴建物跡の研究』六一書房  
日高慎 2016『埴輪窯構造からみた地域相研究』『考古学論究』第17号 立正大学考古学会  
本庄市 1976『本庄市史』資料編 本庄市史編集室  
本庄市 1986『本庄市史』通史編Ⅰ 本庄市史編集室  
早稲田大学會津八一記念複物館 2012『大久保山 浅見丘陵の土地利用史』早稲田大学會津八一記念博物館

# 写真図版



本庄市マスコット

はにぼん





調査区遠景（北から）



調査区全景（南から）

写真図版 2



第 18 号住居跡



第 18 号住居跡カマド遺物出土状況



第 19 号住居跡



第 19 号住居跡遺物出土状況



第 19 号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



第 20 号住居跡



第 20 号住居跡カマド遺物出土状況



第 21 号住居跡



第22号住居跡



第23号住居跡



第23号住居跡遺物出土状況



第23号住居跡カマド遺物出土状況



第23号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



第24号住居跡



第25号住居跡



第25号住居跡遺物出土状況

写真図版 4



第 122 号土坑



第 123・第 124 号土坑



第 124 号土坑遺物出土状況



第 125 号土坑



第 126 号土坑



第 127 号土坑



作業風景



作業風景

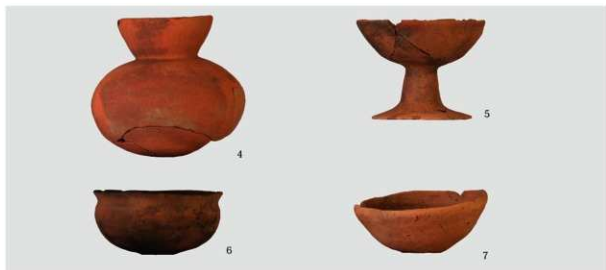


第 18 号住居跡出土遺物

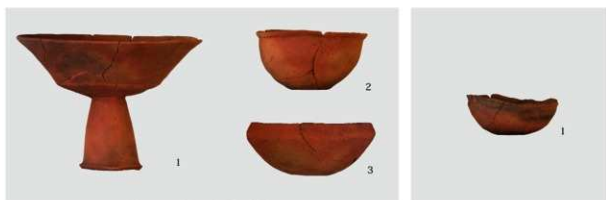


第 19 号住居跡出土遺物 1





第 19 号住居跡出土遺物 2

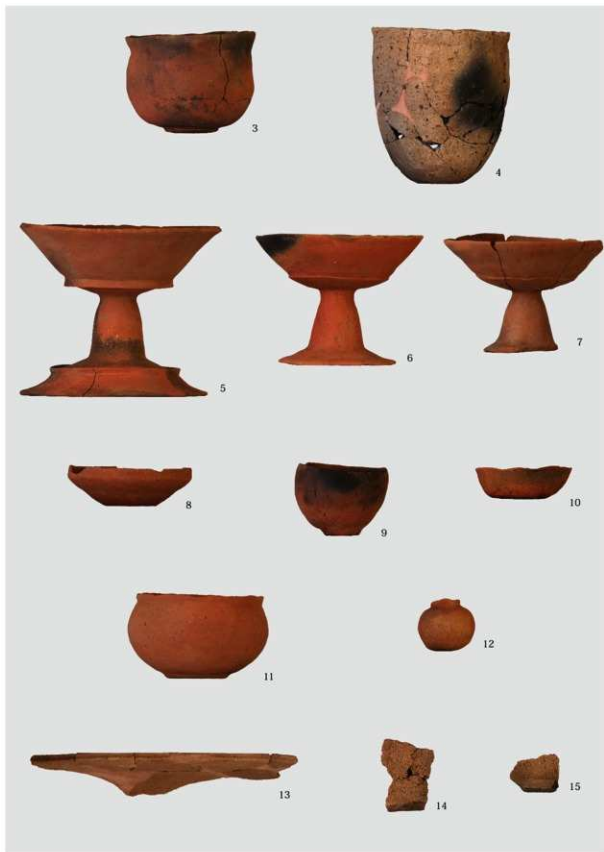


第 20 号住居跡出土遺物

第 22 号住居跡出土遺物



第 23 号住居跡出土遺物 1



第 23 号住居跡出土遺物 2



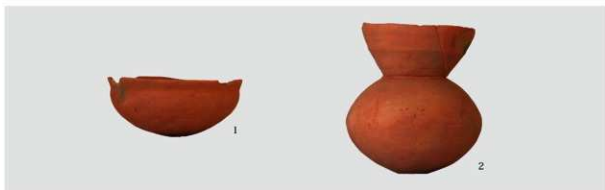
第 24 号住居跡出土遺物



第 25 号住居跡出土遺物

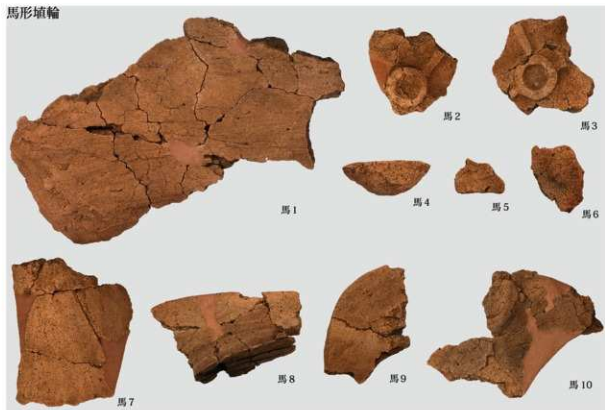


第 124 号土坑出土遺物 1



遺構外出土遺物

馬形埴輪



第 23 号住居跡出土遺物 3



第 25 号住居跡出土遺物

家形埴輪



第 124 号土坑出土遺物 2

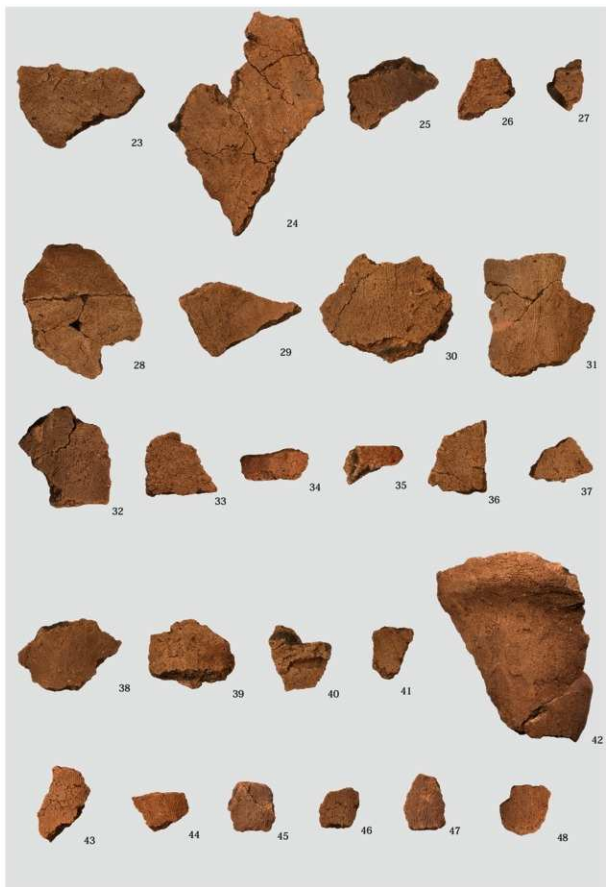


第 124 号土坑出土遺物 3

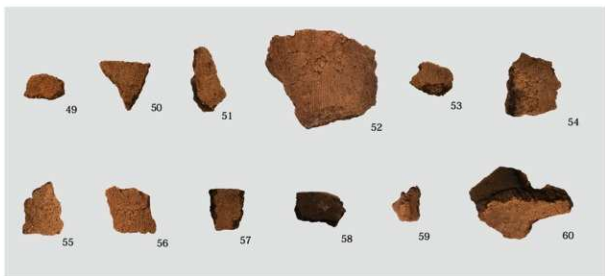
埴輪片（写真掲載のみ）



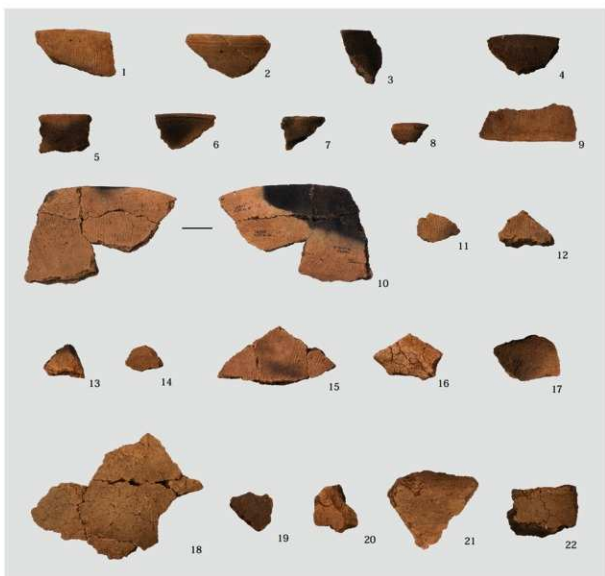
第 23 号住居跡出土遺物 4



第 23 号住居跡出土遺物 5



第 23 号住居跡出土遺物 6



第 124 号土坑出土遺物 4

# 報告書抄録

フリガナ	オジマホンデンイセキ3 Dチテンノチョウサ							
書名	小島本伝遺跡Ⅲ D地点の調査							
副書名								
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書	巻次	第70集					
編著者	渡邊 大士・本庄市教育委員会							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 ℡ 0495-25-1185							
発行日	西暦2022年(令和4年)6月30日							
フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査目的
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡	(度分秒)	(度分秒)			
オジマホンデンイセキ 小島本伝遺跡	本庄市オジマアザヅミササキ 本庄市小島字泉坂886-3、 イナブ 889-1の一部、 イナブ 901-5の一部	112119	53-008	36°15'ア	139°10'19"	20220112 ～ 20220224	449㎡	倉庫建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡	古墳時代	住居跡8軒・土坑6基・ ピット3基		縄文土器、土師器、円筒埴輪、 朝顔形埴輪、馬形埴輪、家形埴輪、 土製陶製品			



---

本庄市埋蔵文化財調査報告書第70集

小島本伝遺跡Ⅲ  
—D地点の調査—

---

令和4年6月24日 印刷

令和4年6月30日 発行

発行／本庄市教育委員会  
埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号  
印刷／朝日印刷工業株式会社  
群馬県前橋市元総社町67番地